

令和 6 年度

第 1 回 県政アンケート調査結果報告書



長野県

目 次

I	調査の概要	-----	1
II	結果の内容	-----	4
	【文化芸術の振興と文化芸術の力の様々な分野への活用について】		
	問1	文化芸術活動を行った人の割合	5
	問2	文化芸術活動におけるオンラインの活用状況	7
	問3	住んでいる地域の文化的環境の満足度	8
	問4	地域の文化的環境の充実に必要な事項	9
	【自殺対策について】		
	問5	自殺対策に関する相談窓口等の認知度	10
	問6	自殺の実態やその予防に関する正しい知識に触れる機会があったかどうか	12
	問7	「死にたいほどつらい」気持ちになったことがあるかどうか	13
	問8	「死にたいほどつらい」気持ちになった際、どこに相談したか	14
	問9	様子が気になる人に対して、どのように接しているか	15
	問10	周りにいる子どもたちは生き生きと過ごすことができていると感じるか	16
	問11	生活困窮、勤務問題で悩んでいる人の割合	17
	問12	生活困窮で困った際の相談先	18
	問13	勤務問題で困った際の相談先	19
	問14	(30～50代で就労(正規・非正規限らず)している方)安心して働けていると感じるか	20
	【防災に関する意識について】		
	問15	自宅周辺の災害リスク認知度	21
	問16	マイ・タイムラインの作成状況	22
	【多文化共生社会について】		
	問17	日常生活での外国人との関わり	23
	問18	外国人とともに暮らす社会への意識	24
	問19	県や市町村が力を入れるべき取組	25
III	調査票	-----	26

I 調 査 の 概 要

1 調査の目的・項目

- 県政の課題について「県政アンケート調査」を実施しました。
今回の調査においては次の項目について19問を設定しました。
- (1) 文化芸術の振興と文化芸術の力の様々な分野への活用について
「しあわせ信州創造プラン3.0」及び「長野県文化芸術振興計画」に掲げる指標の達成状況を把握するため、文化芸術活動に参加した県民の割合等を調査
 - (2) 自殺対策について
「第4次長野県自殺対策推進計画」の指標達成状況等を把握するため、相談窓口などの自殺対策に関する認知度等を調査
 - (3) 防災に関する意識について
「しあわせ信州創造プラン3.0」の施策の推進及び指標達成状況把握のため、県民の防災意識を調査
 - (4) 多文化共生社会について
現在長野県には約4万人の外国人が暮らしており、共生社会の実現に向けた取組を強化していく必要があるため、多文化共生に関する県民の意識を調査

2 調査の方法

- (1) 調査地域：長野県全域
- (2) 調査対象：県内在住の18歳以上の男女（民間調査会社が保有するモニターを活用）
回答者1,000人
- (3) 調査方法：インターネット
- (4) 調査期間：令和6年6月27日(木)～令和6年7月3日(水)

3 回答状況

【男女別・年代別】 (上段 回答者数：下段 割合)

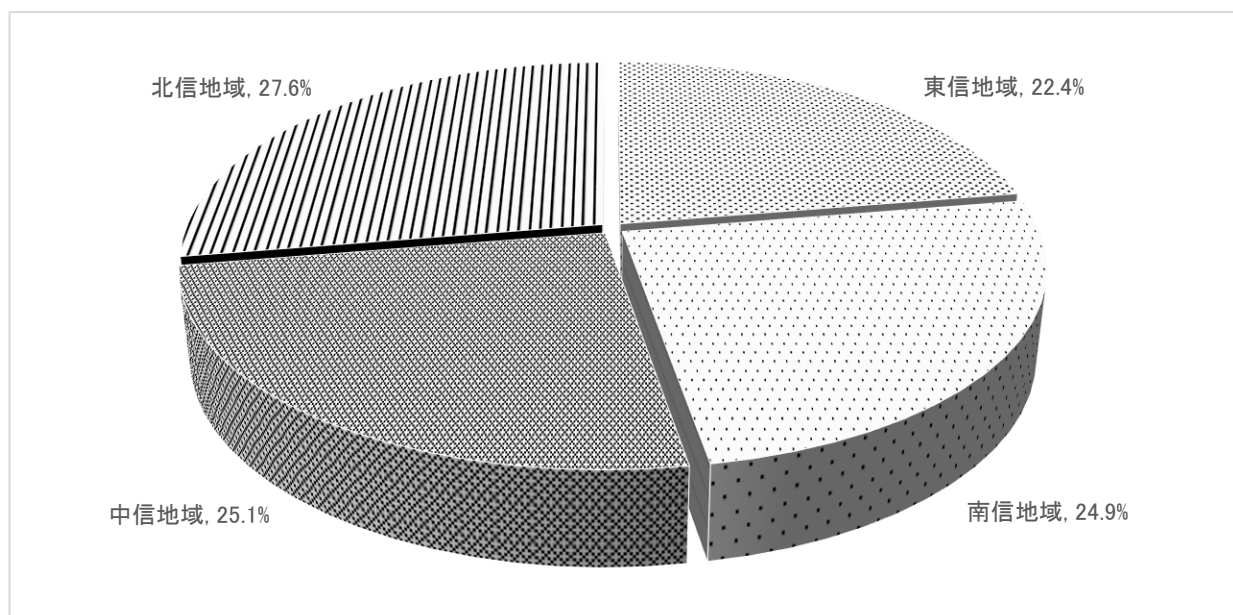
	総数	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
総数	1000人	129人	195人	181人	160人	248人	87人
	100.0%	12.9%	19.5%	18.1%	16.0%	24.8%	8.7%
男性	498人	48人	105人	88人	87人	129人	41人
	49.8%	4.8%	10.5%	8.8%	8.7%	12.9%	4.1%
女性	502人	81人	90人	93人	73人	119人	46人
	50.2%	8.1%	9.0%	9.3%	7.3%	11.9%	4.6%

※ 割合(%)はすべて、回答総数(n=1000)に対する割合



【地域別】

	回答者	
	人数	割合
東信地域	224人	22.4%
南信地域	249人	24.9%
中信地域	251人	25.1%
北信地域	276人	27.6%
合計	1000人	100.0%



4 その他

- (1) 調査結果の割合は、百分率で表記した。百分率の値は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表示している。したがって、割合の合計が100%とまらない場合がある。
 なお、調査の設問には単数回答と複数回答があり、複数回答の場合には割合の合計が100%を上回ることがある。
- (2) 「Ⅱ 結果の内容」中、設問の表記は、便宜上補足（選択肢の番号など）を加えている場合がある。
 また、設問の選択肢で文字数が多いものについては、本文や図表中で便宜上短く省略している場合がある。
- (3) 過去に県政アンケート調査又は県政モニターアンケート調査で同じ内容の調査を行ったものについては、参考値として掲載しているものがある。

Ⅱ 結 果 の 内 容

《文化芸術の振興と文化芸術の力の様々な分野への活用について》

＜文化芸術活動を行った人の割合＞

令和5年度に文化芸術活動(創作・発表・参加・鑑賞)のいずれかを行った人は4割超

- 問1 以下の中で、あなたが令和5年度(令和5年4月1日～令和6年3月31日)に行った「文化芸術活動(鑑賞を含む)」(※)について、当てはまるものをすべて選んでください。(それぞれいくつでも)
 なお、実際の会場(いわゆる「リアル」)での鑑賞や参加等に限らず、デジタル機器を活用してオンライン上で活動や鑑賞を行った場合も含まれます。
 ※「文化芸術活動(鑑賞を含む)」とは、あなたが楽しさを感じ、感動を覚えたと感じる下記のような活動(又は鑑賞)をいいます。

■ 自ら創作・発表、または参加した文化芸術活動

	今回調査(※) n=1000		(参考) R4県政モニターアンケート調査 n=822	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
音楽(クラシック、ロック、ポップス、演歌、民謡など)	49	4.9	98	11.9
写真	42	4.2	68	8.3
美術(絵画、彫刻、工芸、現代美術など)	31	3.1	50	6.1
メディア芸術(映画・漫画・アニメ・CG作品など)	24	2.4	46	5.6
文芸(小説、短歌、俳句、川柳など)	21	2.1	40	4.9
生活文化(書道、華道、茶道など)	17	1.7	57	6.9
国民娯楽(囲碁、将棋など)	14	1.4	15	1.8
舞踊(バレエ、ダンスなど)	13	1.3	5	0.6
演芸(落語、漫才など)	9	0.9	8	1.0
演劇(現代劇、ミュージカルなど)	8	0.8	9	1.1
伝統芸能(能・狂言、雅楽、歌舞伎、詩吟、日本舞踊など)	8	0.8	22	2.7
地域の民俗芸能(獅子舞、神楽など)	7	0.7	18	2.2
その他	11	1.1	14	1.7
行わなかった	848	84.8	531	64.6
無回答	0	0.0	8	1.0

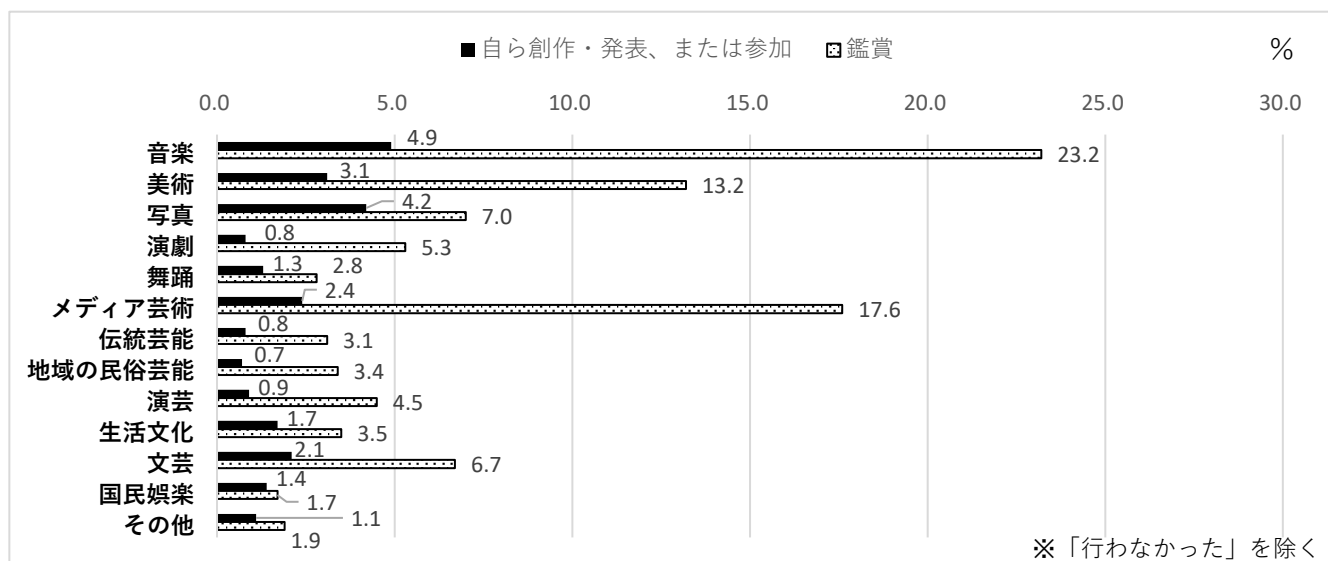
(※) R4調査とは調査手法が異なる

■ 鑑賞した文化芸術作品

	今回調査(※) n=1000		(参考) R4県政モニターアンケート調査 n=822	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
音楽(クラシック、ロック、ポップス、演歌、民謡など)	232	23.2	326	39.7
メディア芸術(映画・漫画・アニメ・CG作品など)	176	17.6	359	43.7
美術(絵画、彫刻、工芸、現代美術など)	132	13.2	285	34.7
写真	70	7.0	135	16.4
文芸(小説、短歌、俳句、川柳など)	67	6.7	98	11.9
演劇(現代劇、ミュージカルなど)	53	5.3	60	7.3
演芸(落語、漫才など)	45	4.5	78	9.5
生活文化(書道、華道、茶道など)	35	3.5	79	9.6
地域の民俗芸能(獅子舞、神楽など)	34	3.4	54	6.6
伝統芸能(能・狂言、雅楽、歌舞伎、詩吟、日本舞踊など)	31	3.1	61	7.4
舞踊(バレエ、ダンスなど)	28	2.8	29	3.5
国民娯楽(囲碁、将棋など)	17	1.7	28	3.4
その他	19	1.9	9	1.1
行わなかった	569	56.9	187	22.7
無回答	0	0.0	6	0.7

(※) R4調査とは調査手法が異なる

●自ら創作・発表、または参加した文化芸術活動は「音楽」（4.9%）が最も高く、「写真」（4.2%）・「美術」（3.1%）の順で続いている。鑑賞した文化芸術作品も「音楽」（23.2%）が最も高いが、鑑賞については「メディア芸術」（17.6%）・「美術」（13.2%）の順となっている。



●「自ら創作・発表、または参加した文化芸術活動」「鑑賞した文化芸術作品」の少なくともどちらか一つを選んだ人を「文化芸術活動を行った人」と集計した場合、今回の調査結果（44.8%）は、前回の調査結果（80.5%）から大きく下がっている。

■ 【問1 まとめ①（複数回答による重複を整理した実数）】
自ら創作・発表、または参加した文化芸術活動

	今回調査(※) n=1000		(参考) R4県政モニターアンケート調査 n=822	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
文化芸術活動の「いずれか」を(の)創作・発表、または参加した人	152	15.2	283	34.4
文化芸術活動の「いずれも」創作・発表、または参加しなかった人	848	84.8	531	64.6
無回答	0	0.0	8	1.0

(※) R4調査とは調査手法が異なる

■ 【問1 まとめ②（複数回答による重複を整理した実数）】
鑑賞した文化芸術作品

	今回調査(※) n=1000		(参考) R4県政モニターアンケート調査 n=822	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
文化芸術活動の「いずれか」を鑑賞した人	431	43.1	628	76.4
文化芸術活動の「いずれも」鑑賞しなかった人	569	56.9	187	22.7
無回答	0	0.0	7	0.9

(※) R4調査とは調査手法が異なる

■ 【問1 まとめ③（複数回答による重複を整理した実数）】
文化芸術活動を行った人

	今回調査(※) n=1000		(参考) R4県政モニターアンケート調査 n=822	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
「自ら創作・発表、または参加」かつ「鑑賞」した人	135	13.5	249	30.3
「自ら創作・発表、または参加」のみ	17	1.7	34	4.1
「鑑賞」のみ	296	29.6	379	46.1
どちらも行わなかった	552	55.2	154	18.7
無回答	0	0.0	6	0.7

(※) R4調査とは調査手法が異なる

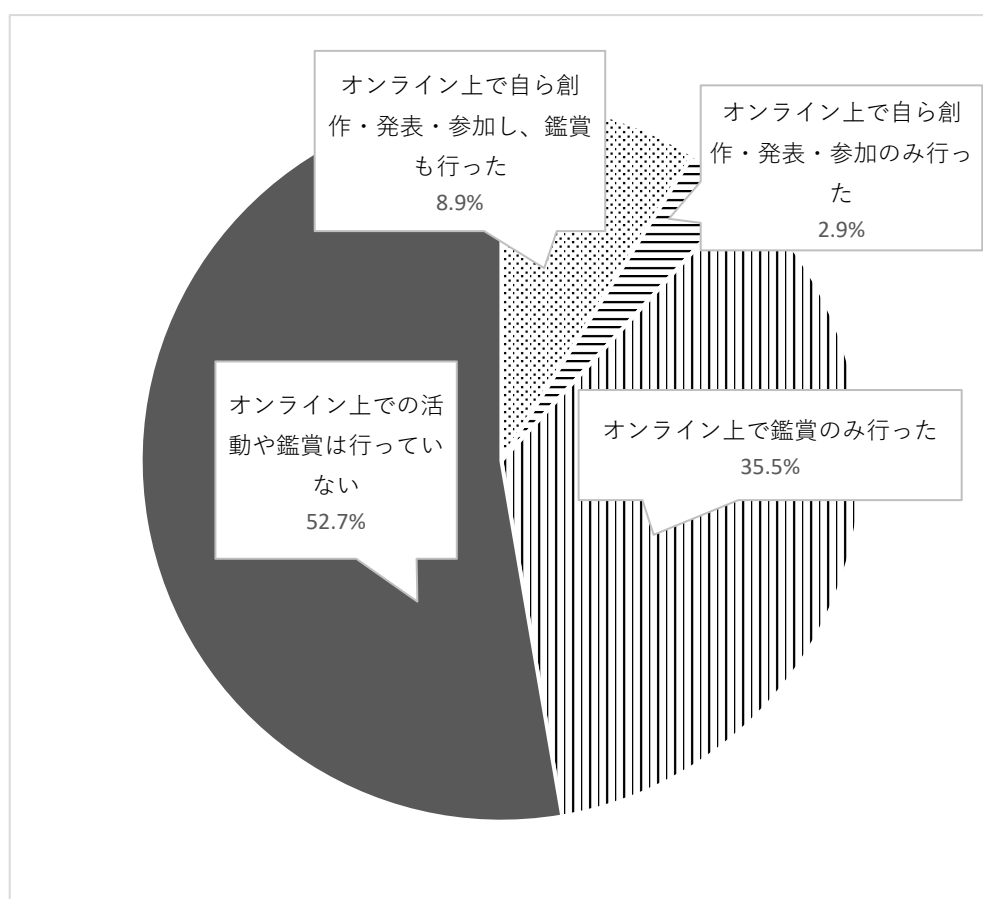
＜文化芸術活動におけるオンラインの活用状況＞

「オンライン上での活動や鑑賞は行っていない」が最も高く5割超、ついで「オンライン上で鑑賞のみ行った」で3割超

問2 問1で1～13(「行わなかった」以外)を一つでも選択した方に伺います。あなたは、文化芸術活動においてデジタル機器等を活用してオンライン上で活動や鑑賞を行いましたか。当てはまるものを選んでください。

	n=448	回答数 (人)	割合 (%)
オンライン上で自ら創作・発表・参加し、鑑賞も行った	40	40	8.9
オンライン上で自ら創作・発表・参加のみ行った	13	13	2.9
オンライン上で鑑賞のみ行った	159	159	35.5
オンライン上での活動や鑑賞は行っていない	236	236	52.7

●オンラインを活用した文化芸術活動については「行っていない」(52.7%)が最も高いが、行っている場合は「鑑賞のみ」(35.5%)が最も高い。



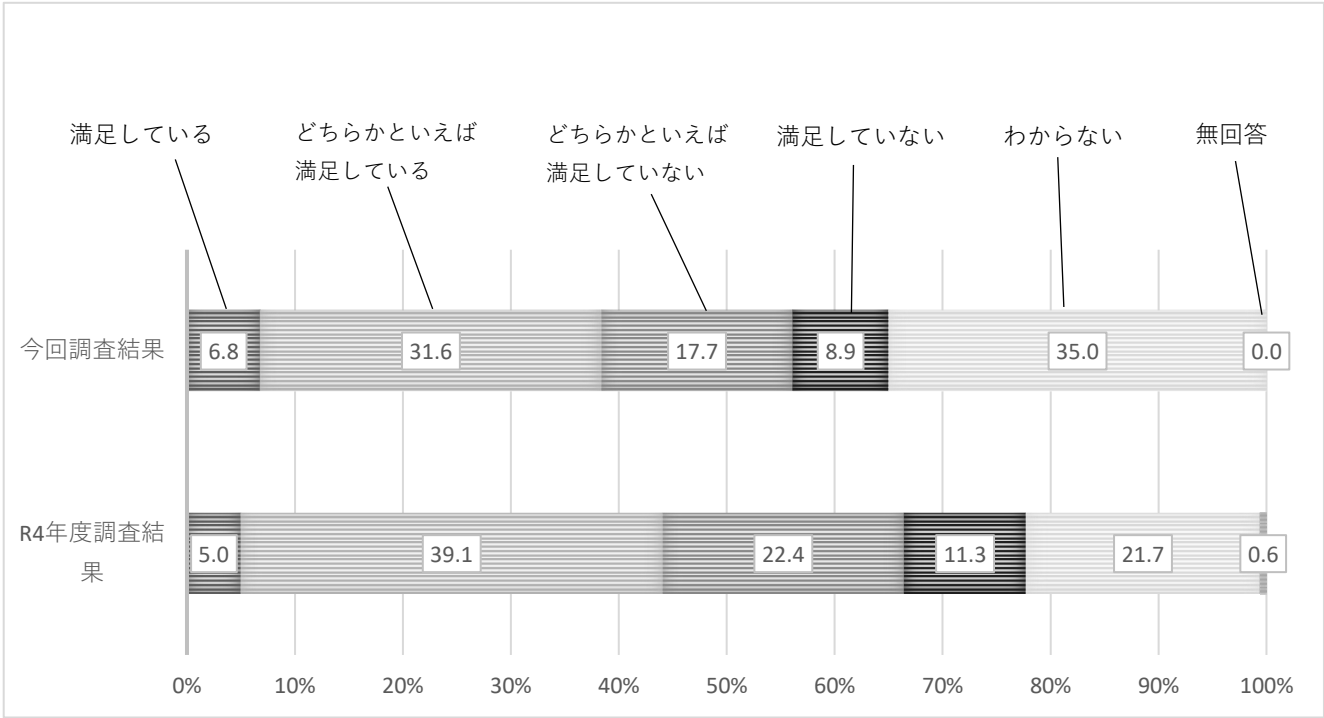
<住んでいる地域の文化的環境の満足度>
「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせて約4割

あなたは、あなたが住んでいる市町村の文化的環境、例えば、創作・発表・参加機会、鑑賞機会、文化財や伝統的まちなみの保存・整備などに満足していますか。当てはまるものを選んでください。

	今回調査(※) n=1000		(参考)R4県政モニターアンケート調査 n=822	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
満足している	68	6.8	41	5.0
どちらかといえば満足している	316	31.6	321	39.1
どちらかといえば満足していない	177	17.7	184	22.4
満足していない	89	8.9	93	11.3
わからない	350	35.0	178	21.7
無回答	0	0.0	5	0.6

(※)R4調査とは調査手法が異なる

●「わからない」(35.0%)の回答を除くと、「どちらかといえば満足している」が31.6%と最も高く、次に「どちらかといえば満足していない」(17.7%)と続いている。



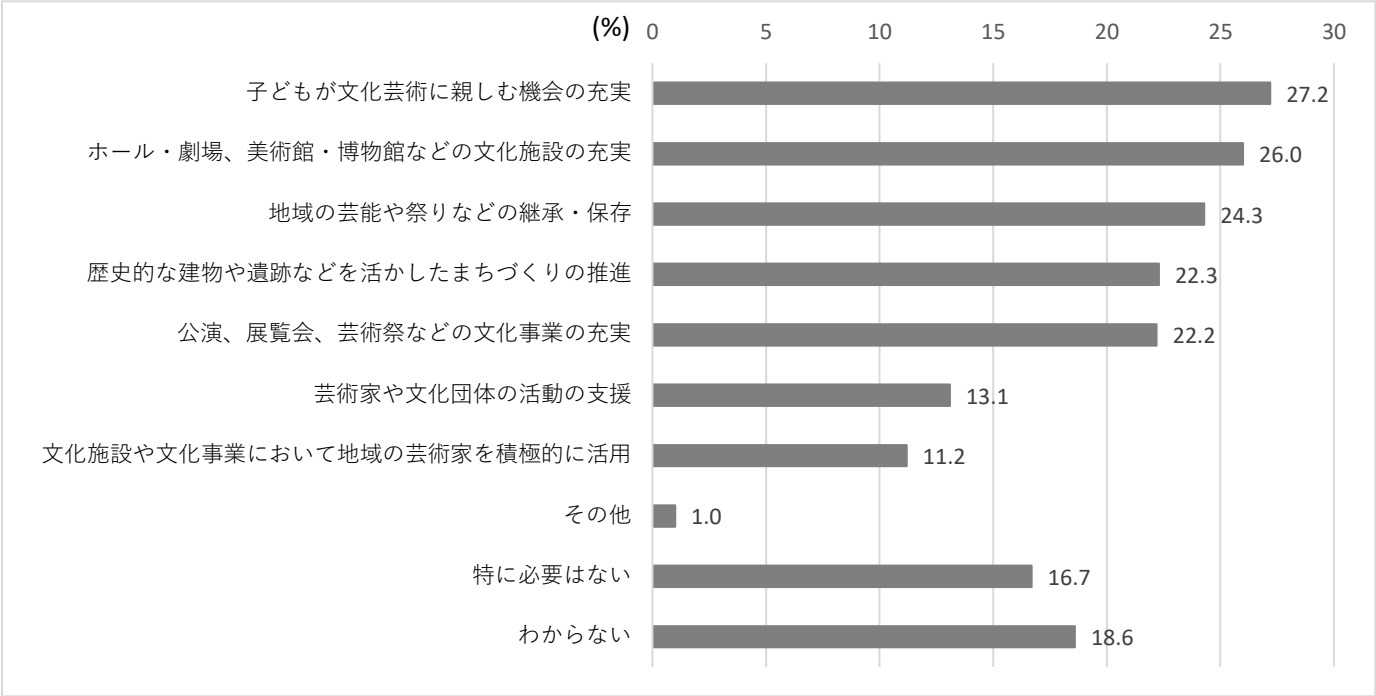
<地域の文化的環境の充実に必要な事項>
「子どもが文化芸術に親しむ機会の充実」が3割弱

問4 あなたは、あなたが住んでいる市町村の文化的環境を満足できるものとするために、何が必要だと思いますか。当てはまるものを選んでください。(いくつでも)

	今回調査(※) n=1000		(参考)R4県政モニター アンケート調査 n=822	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
子どもが文化芸術に親しむ機会の充実	272	27.2	330	40.1
ホール・劇場、美術館・博物館などの文化施設の充実	260	26.0	220	26.8
地域の芸能や祭りなどの継承・保存	243	24.3	298	36.3
歴史的な建物や遺跡などを活かしたまちづくりの推進	223	22.3	241	29.3
公演、展覧会、芸術祭などの文化事業の充実	222	22.2	327	39.8
芸術家や文化団体の活動の支援	131	13.1	163	19.8
文化施設や文化事業において地域の芸術家を積極的に活用	112	11.2	132	16.1
その他	10	1.0	37	4.5
特に必要はない	167	16.7	38	4.6
わからない	186	18.6	66	8.0
無回答	0	0.0	2	0.2

(※) R4調査とは調査手法が異なる

●「子どもが文化芸術に親しむ機会の充実」が27.2%と最も高く、「ホール・劇場、美術館・博物館などの文化施設の充実」(26.0%)、「地域の芸能や祭りなどの継承・保存」(24.3%)と続いている。



その他としては、「広報活動」「文化施設等を利用しやすい料金設定」等の回答があった。

《自殺対策について》

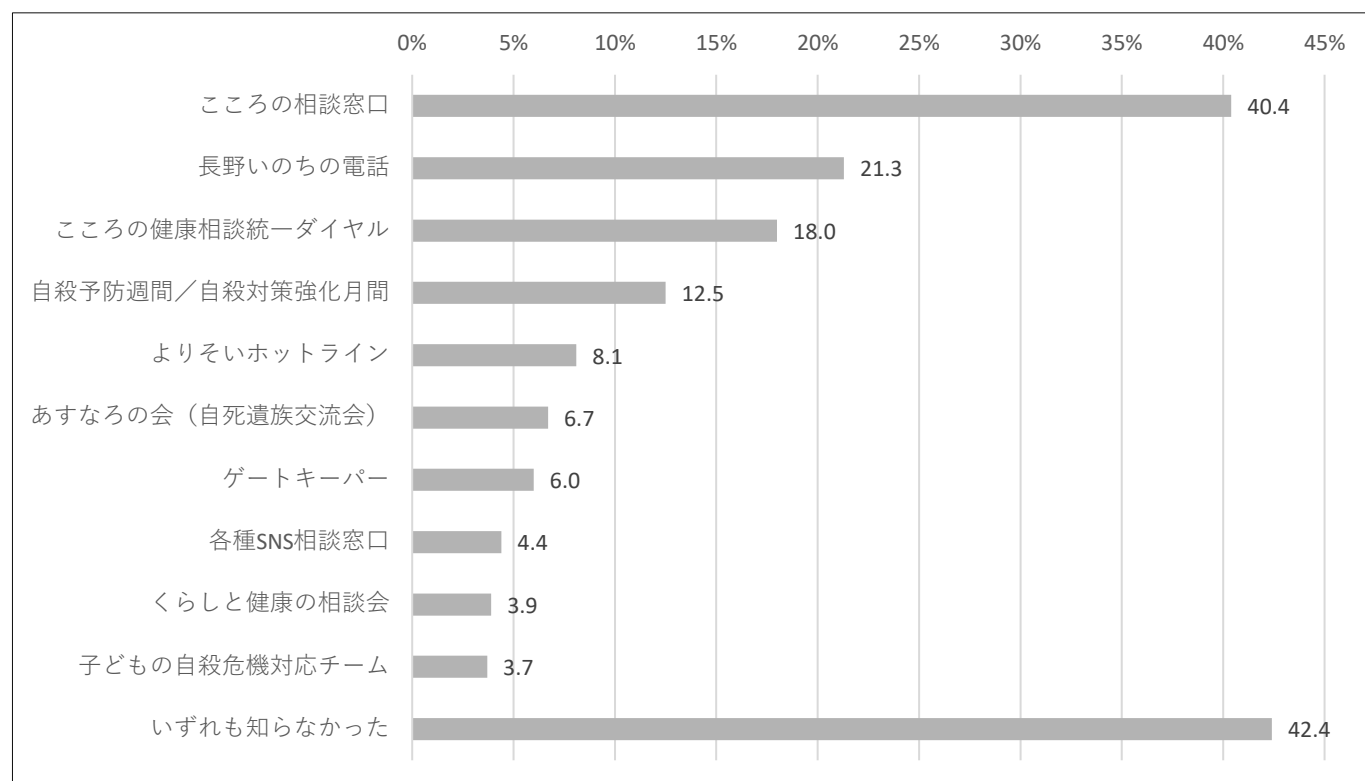
＜自殺対策に関する相談窓口等の認知度＞

各項目において、「知っている」と答えた人の割合は「こころの相談窓口」の認知度は約4割、「長野いのちの電話」及び「こころの健康相談統一ダイヤル」は約2割

問5 自殺対策に関する以下の相談窓口等について知っていますか。当てはまるものを選んでください。(いくつでも)

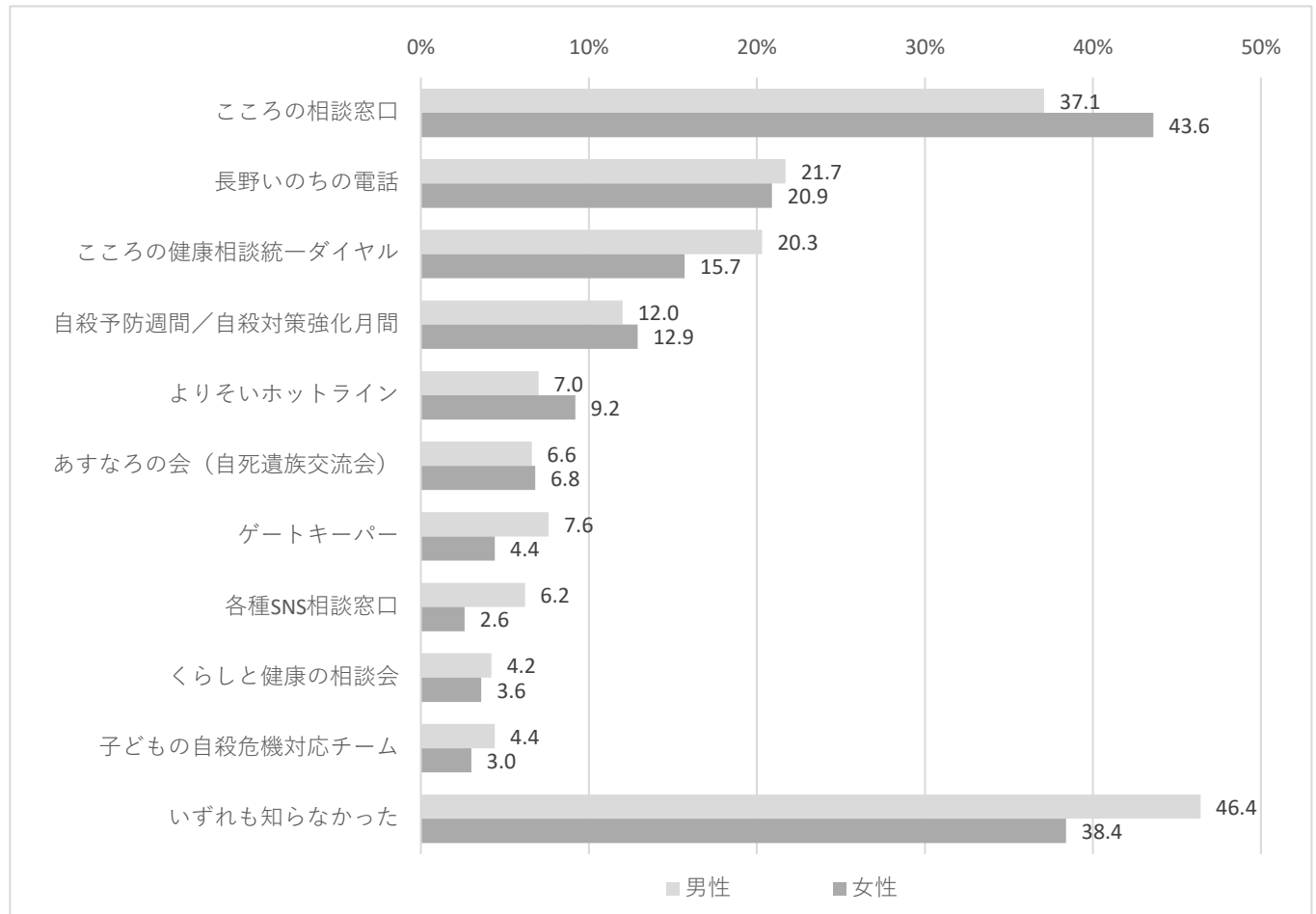
	今回調査 n=1,000		(参考) 前回 R5.8月調査 n=1,000	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
こころの相談窓口	404	40.4	419	41.9
長野いのちの電話	213	21.3	202	20.2
こころの健康相談統一ダイヤル	180	18.0	228	22.8
自殺予防週間／自殺対策強化月間	125	12.5	81	8.1
よりそいホットライン	81	8.1	75	7.5
あすなろの会(自死遺族交流会)	67	6.7	—	—
ゲートキーパー	60	6.0	49	4.9
各種SNS相談窓口	44	4.4	31	3.1
くらしと健康の相談会	39	3.9	28	2.8
子どもの自殺危機対応チーム	37	3.7	22	2.2
いずれも知らなかった	424	42.4	430	43.0

●「こころの相談窓口」は40.4%、「長野いのちの電話」は21.3%、「こころの健康相談統一ダイヤル」は18.0%、「自殺予防週間/自殺対策強化月間」は12.5%の認知度があるが、それ以外については認知度が10%を下回り軒並み低く、「いずれも知らなかった」が42.4%となっている。



相談窓口等の認知度の男女別割合

●認知度について男女で大きな差はなかったが、「いずれも知らなかった」が男性は46.4%と、女性の38.4%を8.0%上回っている。

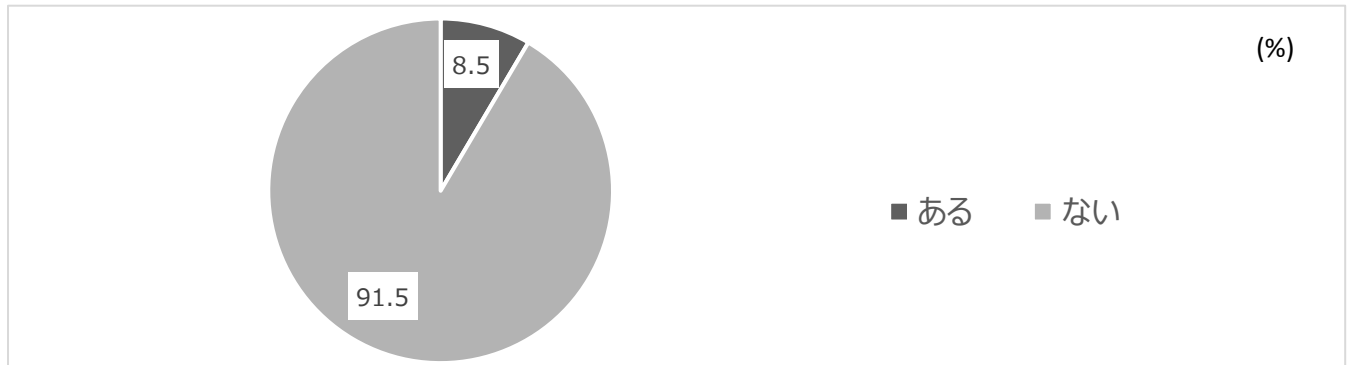


<自殺の実態やその予防に関する正しい知識に触れる機会があったかどうか>
正しい知識に触れる機会が「ある」との回答は約1割

問6 あなたは自殺の実態やその予防に関する正しい知識に触れる機会（（例）ゲートキーパー研修や講演会に参加した、啓発に関する情報を見聞きした等）がありましたか。当てはまるものを選んでください。

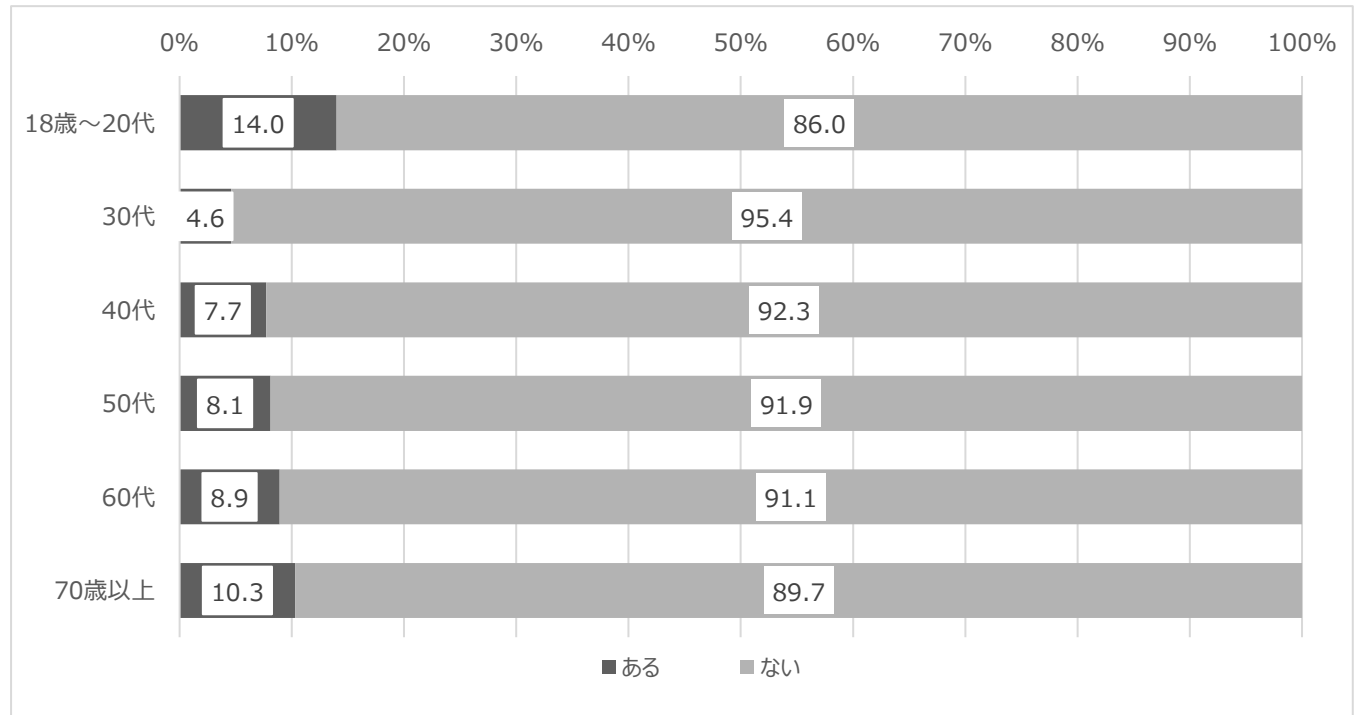
	今回調査 n=1,000		(参考)前回 R5.8月調査 n=1,000	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
ある	85	8.5	69	6.9
ない	915	91.5	931	93.1

●自殺の実態やその予防に関する正しい知識に触れる機会が「ある」8.5%、「ない」91.5%となっている。



自殺の実態やその予防に関する正しい知識に触れる機会があったかどうかの年代別割合

●機会が「ある」との回答が最も多かったのが18歳～20代（14.0%）、それ以外の年代は1割に満たないか約1割にとどまる。

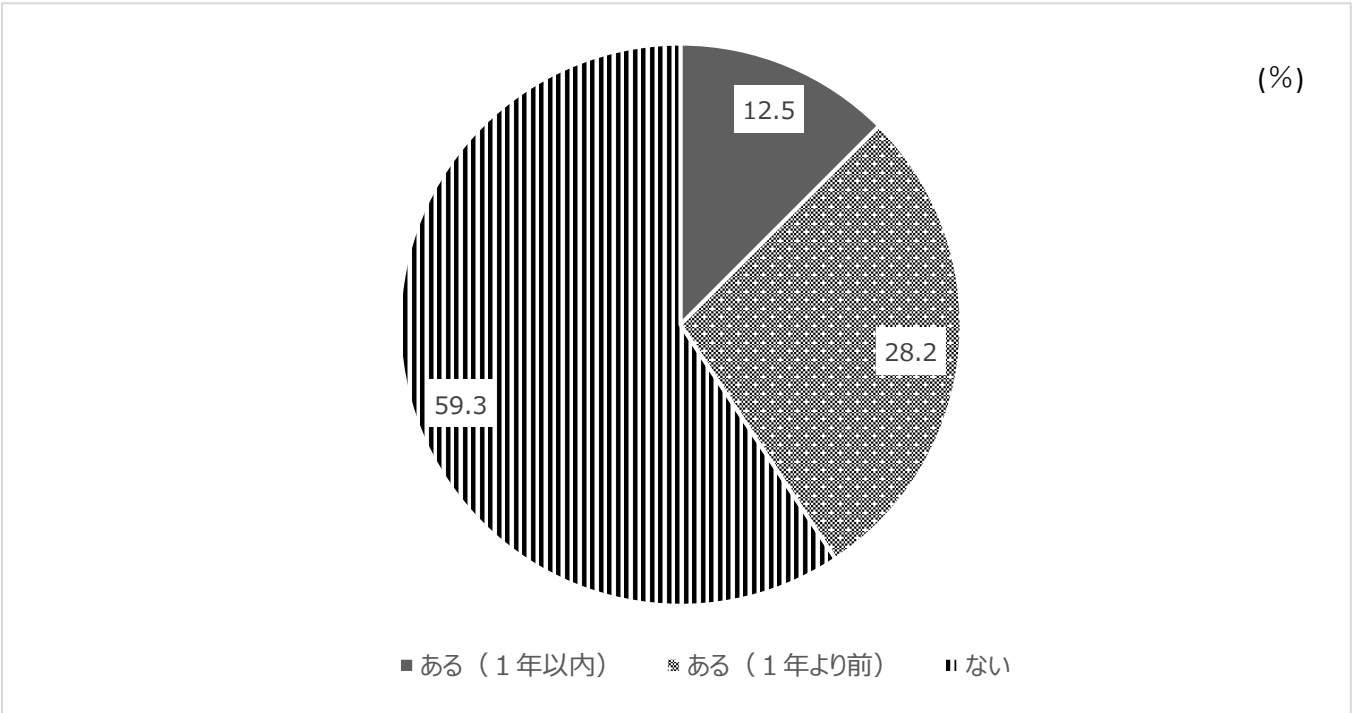


<「死にたいほどつらい」気持ちになったことがあるかどうか>
 1年以内に「死にたいほどつらい」気持ちになったことがあると回答したのは約1割だが、1年より前にそのような気持ちになったことがある人も含めると約4割

問7 あなたは「死にたいほどつらい」気持ちになったことがありますか。当てはまるものを選んでください。

	今回調査 n=1,000		(参考)前回 R5.8月調査 n=1,000	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
ある(1年以内)	125	12.5	111	11.1
ある(1年より前)	282	28.2	255	25.5
ない	593	59.3	634	63.4

●「死にたいほどつらい」気持ちになったことがあるとの回答が、1年以内は12.5%、1年より前は28.2%となっている。

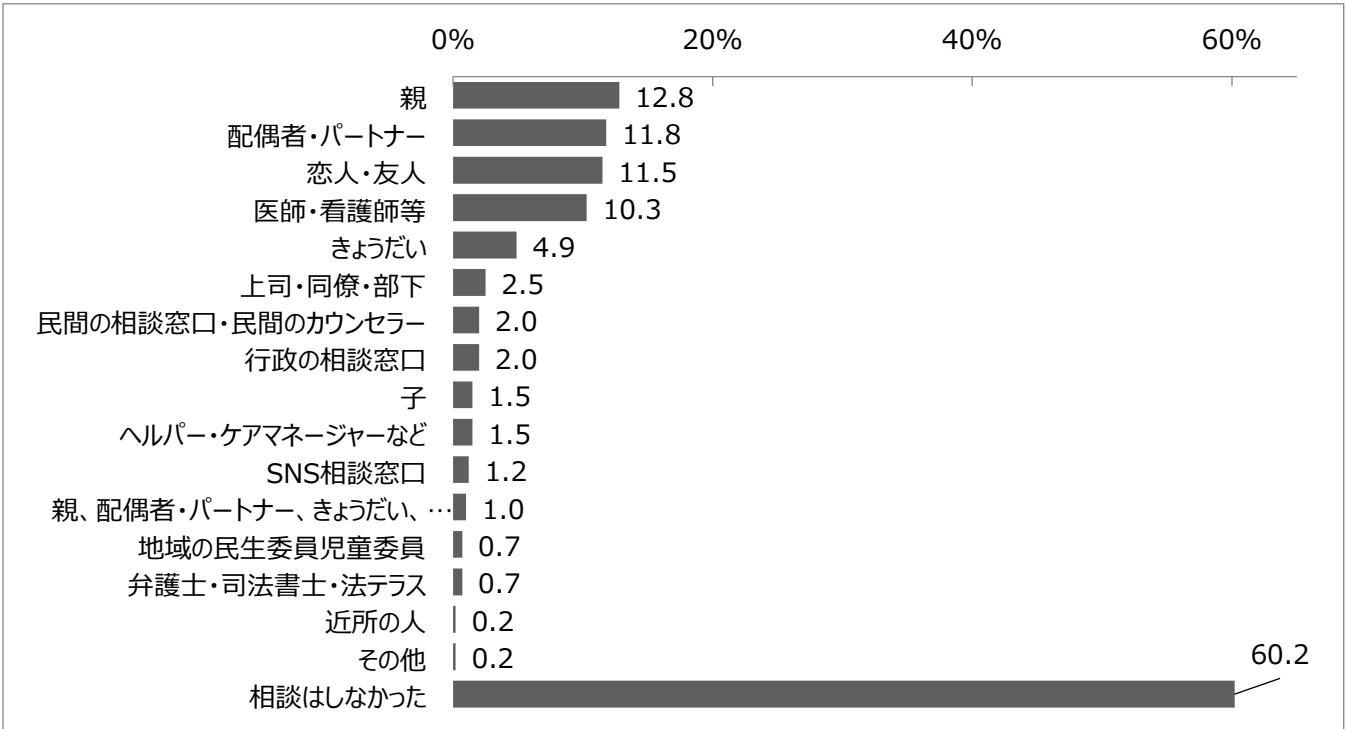


<「死にたいほどつらい」気持ちになった際、どこに相談したか>
 「死にたいほどつらい」気持ちになった際、「相談はしなかった」との回答が最も多く約6割

問7で「ある（1年以内）」または「ある（1年より前）」を選ばれた方に伺います。どこかに相談しましたか。当てはまるものを選んでください。（いくつでも）
 問8 また、「その他」の場合は、具体的な相談先をご記載ください。

	n=407	回答数 (人)	割合 (%)
親		52	12.8
配偶者・パートナー		48	11.8
恋人・友人		47	11.5
医師・看護師等		42	10.3
きょうだい		20	4.9
上司・同僚・部下		10	2.5
民間の相談窓口・民間のカウンセラー		8	2.0
行政の相談窓口		8	2.0
子		6	1.5
ヘルパー・ケアマネージャーなど		6	1.5
SNS相談窓口		5	1.2
親、配偶者・パートナー、きょうだい、子 を除く親族		4	1.0
地域の民生委員児童委員		3	0.7
弁護士・司法書士・法テラス		3	0.7
近所の人		1	0.2
その他		1	0.2
相談はしなかった		245	60.2

●「相談はしなかった」が最も多く60.2%となっており、次に「親」（12.8%）、「配偶者・パートナー」（11.8%）、「恋人・友人」（11.5%）と続いている。



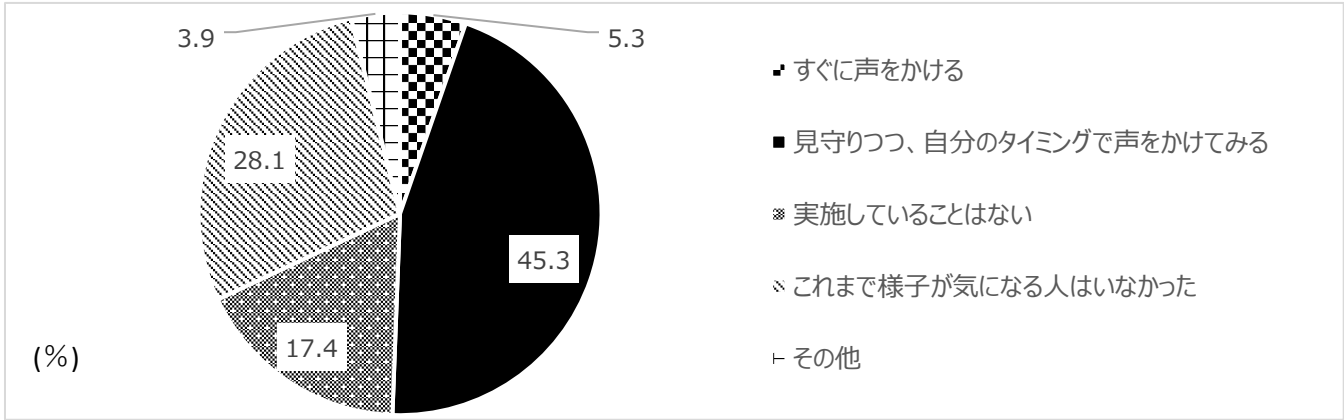
その他としては、「大学の相談窓口」と回答があった。

＜様子が気になる人に対して、どのように接しているか＞
「見守りつつ、自分のタイミングで声をかけてみる」が4割超、「実施していることはない」が2割弱

問9 「表情が暗い」「疲れていそう」など、様子が気になる人に対して、どのように接していますか。最も当てはまるものを選んでください。

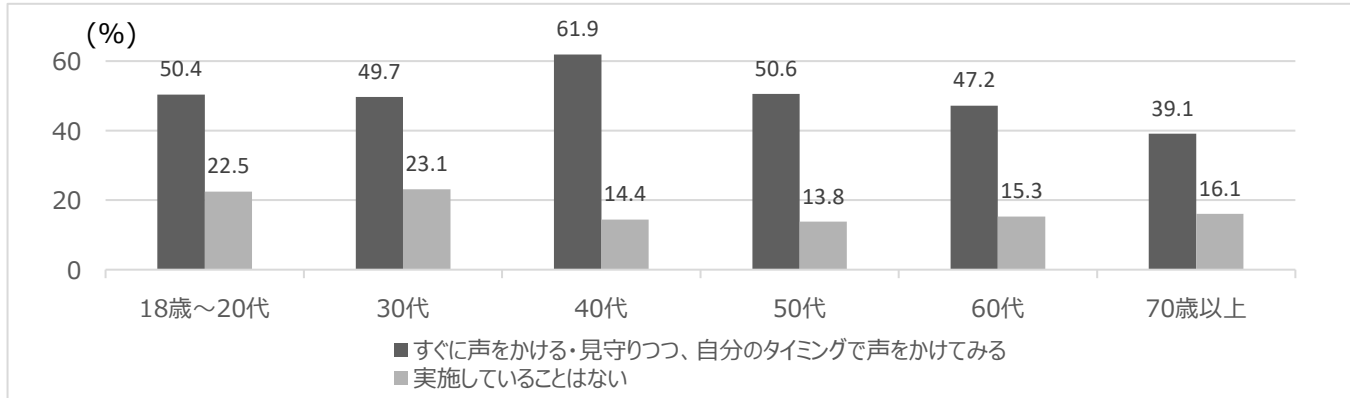
	n=1,000	回答数 (人)	割合 (%)
すぐに声をかける		53	5.3
見守りつつ、自分のタイミングで声をかけてみる		453	45.3
実施していることはない		174	17.4
これまで様子が気になる人はいなかった		281	28.1
その他		39	3.9

● 「すぐに声をかける」と「見守りつつ、自分のタイミングで声をかけてみる」が計50.6%、「実施していることはない」が17.4%となっている。



「すぐに声をかける・見守りつつ、自分のタイミングで声をかけてみる」と「実施していることはない」の年代別の割合

● いずれの年代でも、様子が気になる人がいた場合には、声をかける割合が高い。



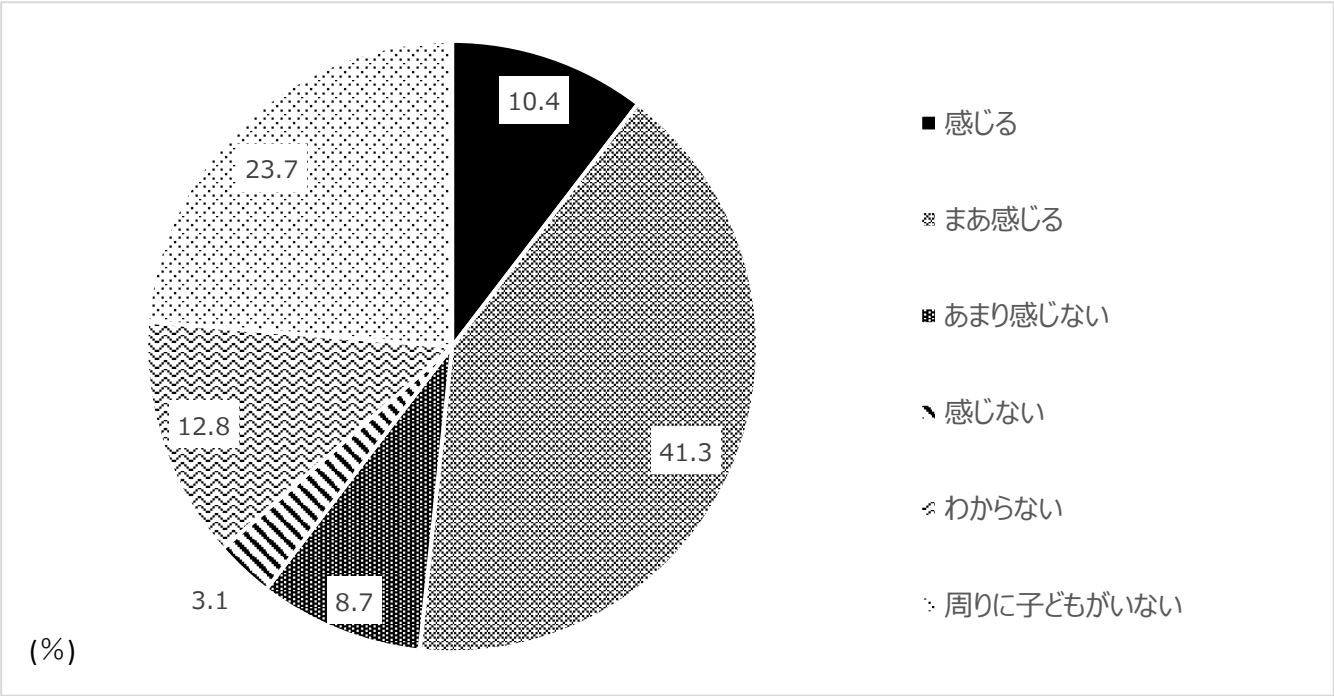
＜周りにいる子どもたちは生き生きと過ごすことができていると感じるか＞

周りにいる子どもたちは生き生きと過ごすことができていると「感じる」(10.4%)と「まあ感じる」(41.3%)が計約5割、「あまり感じない」(8.7%)と「感じない」(3.1%)が計約1割

問10 あなたの周りにいる子どもたちは生き生きと過ごすことができていると感じますか。当てはまるものを選んでください。「あまり感じない」もしくは「感じない」を選んだ方は、その理由もご記載ください。

	今回調査 n=1,000		(参考)前回 R5.8月調査 n=1,000	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
感じる	104	10.4	75	7.5
まあ感じる	413	41.3	368	36.8
あまり感じない	87	8.7	204	20.4
感じない	31	3.1	53	5.3
わからない	128	12.8	300	30.0
周りに子どもがいない	237	23.7	—	—

●周りにいる子どもたちは生き生きと過ごすことができていると「感じる」(10.4%)、「まあ感じる」(41.3%)、「あまり感じない」(8.7%)、「感じない」(3.1%)となっている。



「あまり感じない」「感じない」の理由として、「元気がない」「外で遊ぶ姿を見かけない」「不登校が増えている」「制限が多い」「大人が悩みに気づけない」などの回答があった。

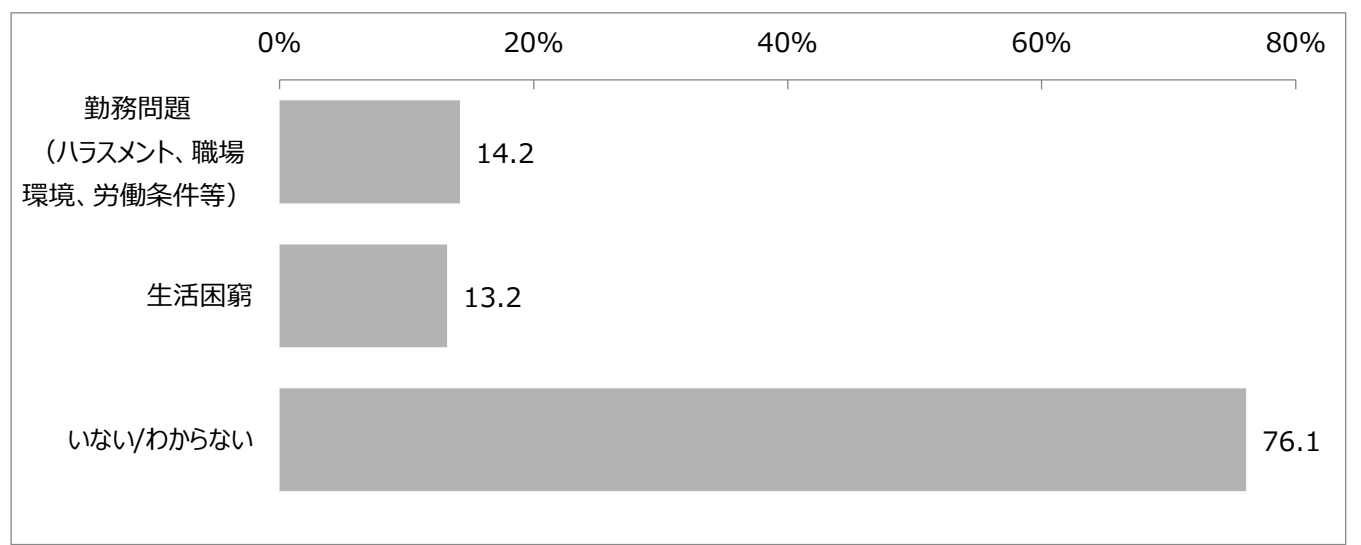
<生活困窮、勤務問題で悩んでいる人の割合>
「勤務問題」、「生活困窮」で悩んでいるとの回答はいずれも1割超

問11

あなた自身、家族又は周囲の人に下記の内容が原因で悩んでいる方はいますか。当てはまるものを選んでください。(いくつでも)

	今回調査 n=1,000		(参考)前回 R5.8月調査 n=1,000	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
勤務問題 (ハラスメント、職場環境、労働条件等)	142	14.2	218	21.8
生活困窮	132	13.2	189	18.9
いない/わからない	761	76.1	661	66.1

●「勤務問題」で悩んでいるとの回答は14.2%、「生活困窮」で悩んでいるとの回答は13.2%となった。

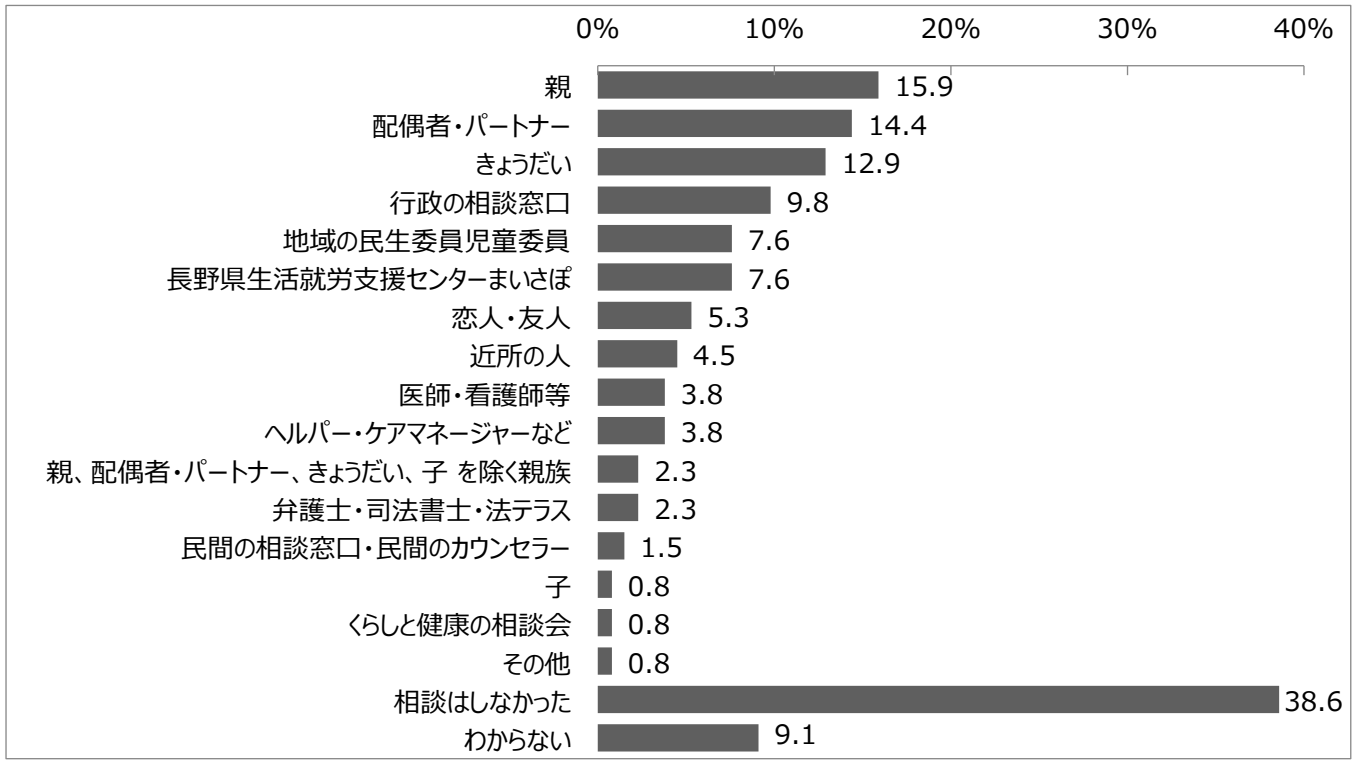


＜生活困窮で困った際の相談先＞
生活困窮で困った際に「相談はしなかった」が約4割で、どこかに相談した中で最も多い相談先は「親」で1割超

問11で「生活困窮」を選ばれた方に伺います。その悩んでいる方はどこに相談しましたか。当てはまるものを選んでください。(いくつでも)
問12 また、「その他」の場合は、具体的な相談先をご記載ください。

	n=132	回答数 (人)	割合 (%)
親		21	15.9
配偶者・パートナー		19	14.4
きょうだい		17	12.9
行政の相談窓口(福祉事務所、生活保護担当部署など)		13	9.8
地域の民生委員児童委員		10	7.6
長野県生活就労支援センターまいさぼ(社会福祉協議会)		10	7.6
恋人・友人		7	5.3
近所の人		6	4.5
医師・看護師等		5	3.8
ヘルパー・ケアマネージャーなど		5	3.8
親、配偶者・パートナー、きょうだい、子 を除く親族		3	2.3
弁護士・司法書士・法テラス		3	2.3
民間の相談窓口・民間のカウンセラー		2	1.5
子		1	0.8
くらしと健康の相談会(保健福祉事務所で開催)		1	0.8
その他		1	0.8
相談はしなかった		51	38.6
わからない		12	9.1

●「相談はしなかった」が38.6%と最も多かった。どこかに相談した中で、最も多い相談先が「親」(15.9%)、ついで「配偶者・パートナー」(14.4%)となった。

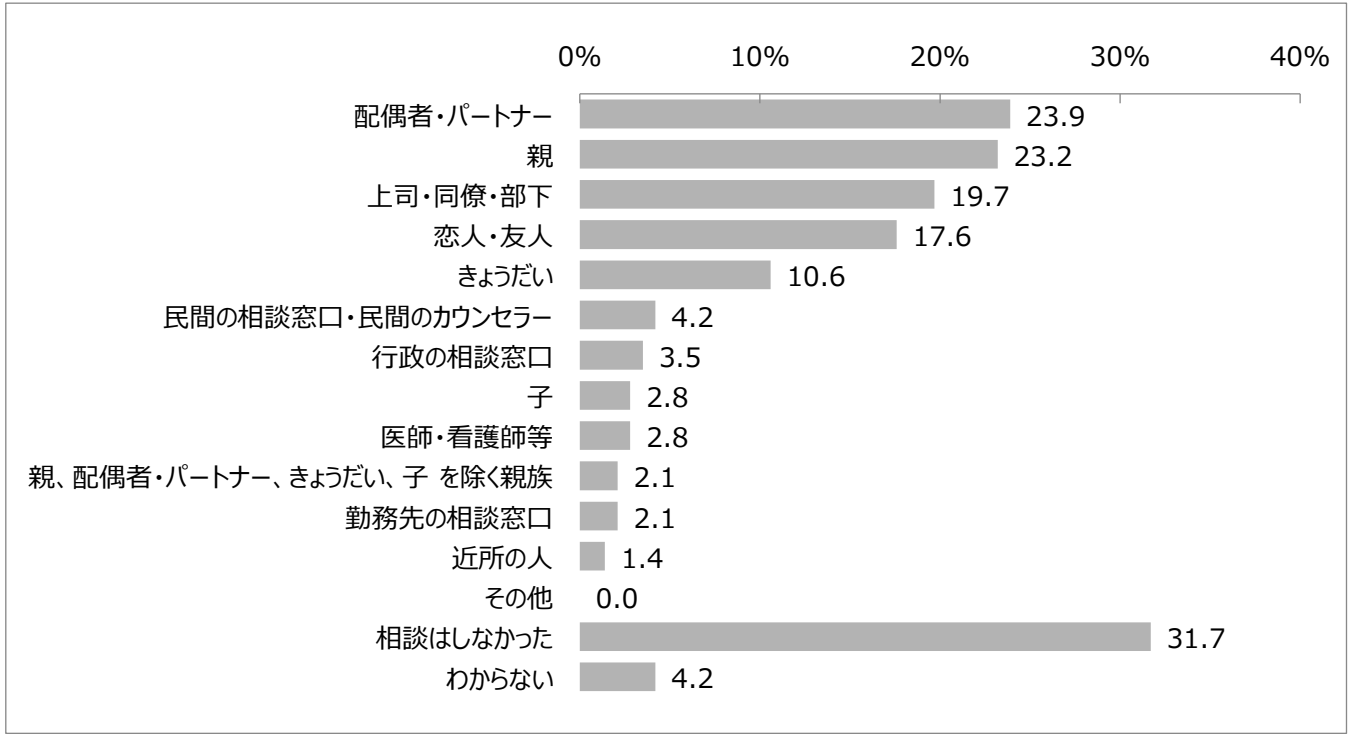


＜勤務問題で困った際の相談先＞
 勤務問題で困った際に「相談はしなかった」が約3割で、どこかに相談した中で最も多い相談先は「配偶者・パートナー」で2割超

問13 問11で「勤務問題」を選ばれた方に伺います。その悩んでいる方はどこに相談をしましたか。当てはまるものを選んでください。(いくつでも)
 また、「その他」の場合は、具体的な相談先をご記載ください。

	n=142	回答数 (人)	割合 (%)
配偶者・パートナー		34	23.9
親		33	23.2
上司・同僚・部下		28	19.7
恋人・友人		25	17.6
きょうだい		15	10.6
民間の相談窓口・民間のカウンセラー		6	4.2
行政の相談窓口(労政事務所、長野労働局雇用環境・均等室、労働基準監督署など)		5	3.5
子		4	2.8
医師・看護師等		4	2.8
親、配偶者・パートナー、きょうだい、子 を除く親族		3	2.1
勤務先の相談窓口		3	2.1
近所の人		2	1.4
その他		0	0.0
相談はしなかった		45	31.7
わからない		6	4.2

●「相談はしなかった」は31.7%。どこかに相談した中で、最も多い相談先が「配偶者・パートナー」(23.9%)、ついで「親」(23.2%)、「上司・同僚・部下」(19.7%)となった。

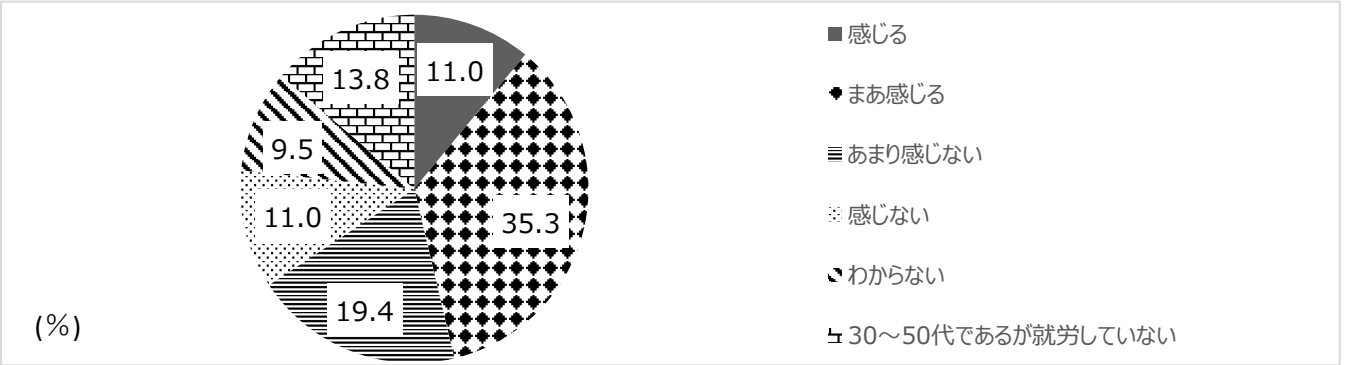


<(30代～50代で就労(正規・非正規限らず)している方)安心して働けていると感じるか>
 「感じる」(11.0%)と「まあ感じる」(35.3%)が合わせて5割弱、「あまり感じない」(19.4%)と「感じない」(11.0%)が合わせて約3割

年齢が30～50代で現在就労(正規・非正規限らず)している方へ伺います。あなたは安心して働けていると感じますか。当てはまるものを選んでください。「あまり感じない」もしくは「感じない」を選んだ方は、その理由もご記載ください。

	n=536	回答数 (人)	割合 (%)
感じる		59	11.0
まあ感じる		189	35.3
あまり感じない		104	19.4
感じない		59	11.0
わからない		51	9.5
30～50代であるが就労していない		74	13.8

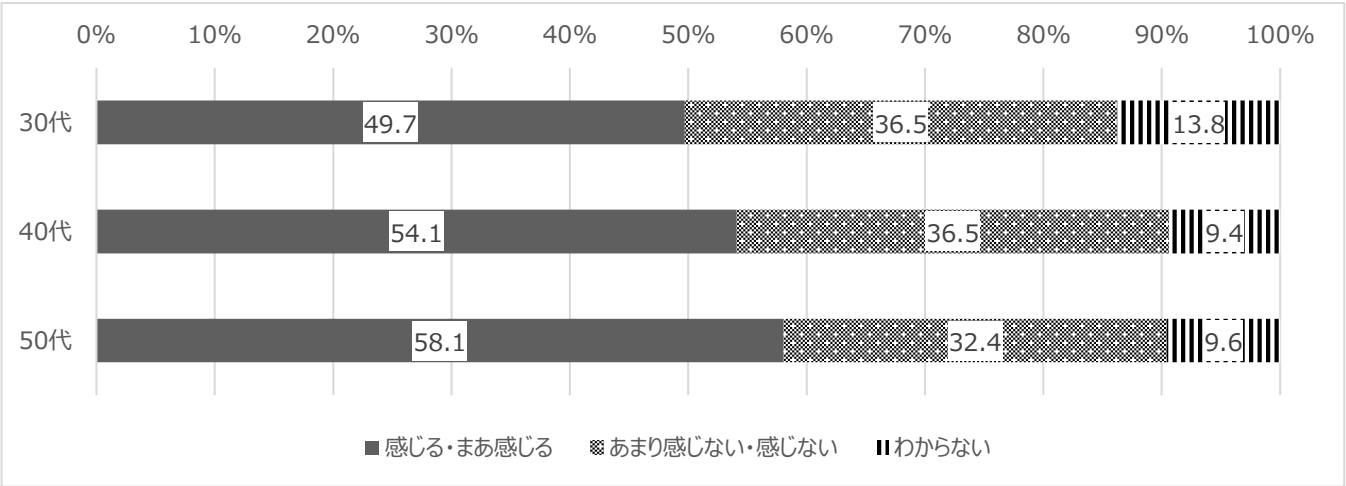
●安心して働けていると「感じる」(11.0%)「まあ感じる」(35.3%)が計46.3%、「あまり感じない」(19.4%)「感じない」(11.0%)が計30.4%となっている。



「あまり感じない」「感じない」の理由として、「収入が少ない」「ハラスメントがある」「雇用が不安定」「先行きが不安」などの回答があった。

安心して働けていると感じるか・感じないかの年代別の割合

●安心して働けていると「感じる・まあ感じる」は、50代で最も多く58.1%となっている。



《防災に関する意識について》

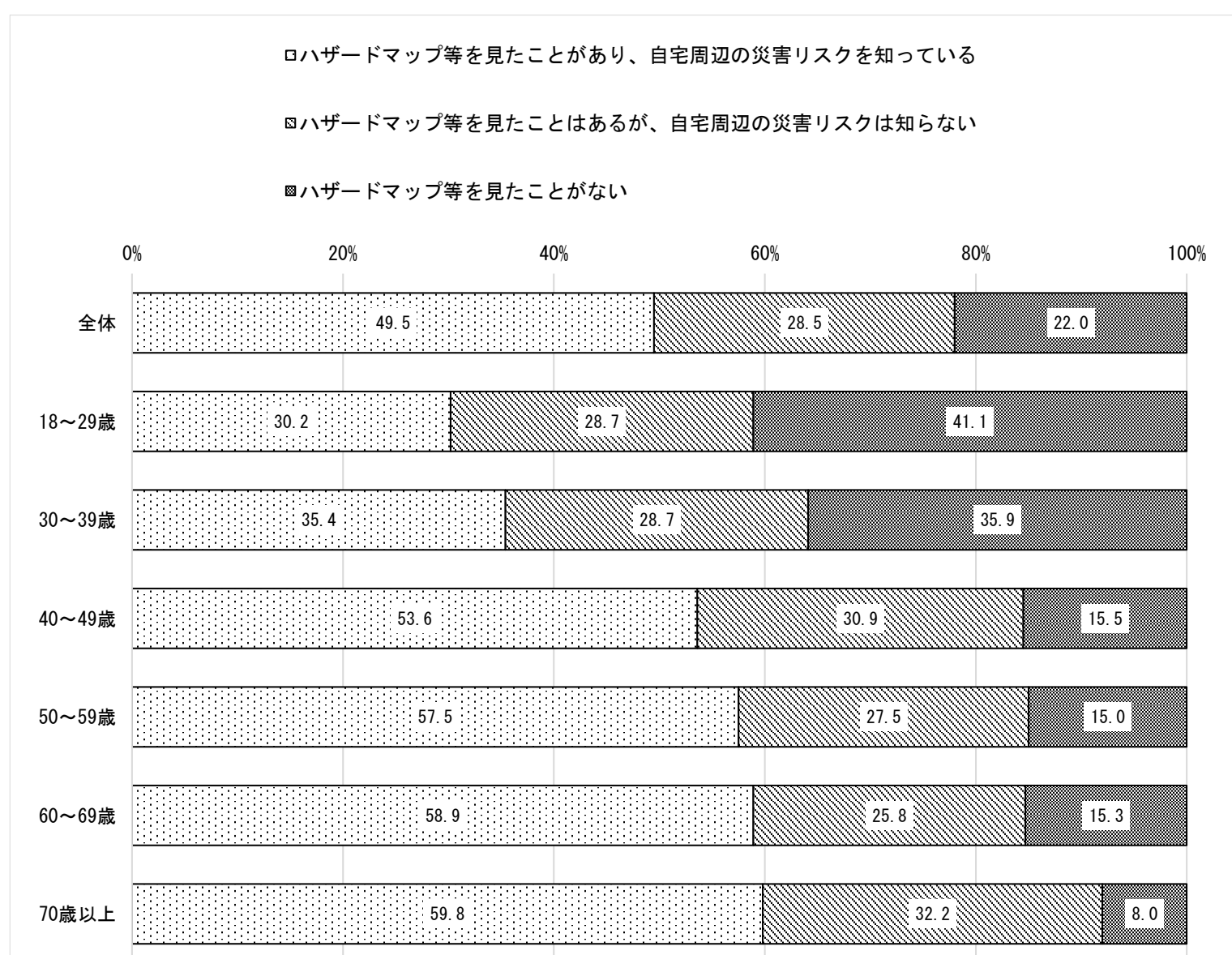
＜自宅周辺の災害リスク認知度＞

「ハザードマップ等を見たことがあり、自宅周辺の災害リスクを知っている」が約5割

問15 ハザードマップや信州防災アプリなどにより、自宅周辺の災害リスクを認識していますか。
当てはまるものを選んでください。

	今回調査 n=1,000		(参考) 前回 R5.9月調査 n=1,000	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
ハザードマップ等を見たことがあり、自宅周辺の災害リスクを知っている	495	49.5	587	58.7
ハザードマップ等を見たことはあるが、自宅周辺の災害リスクは知らない	285	28.5	274	27.4
ハザードマップ等を見たことがない	220	22.0	139	13.9

●自宅周辺の災害リスクを知っている割合は70歳以上が59.8%と最も多く、災害リスク認知度が高くなっているが、39歳以下の年代では5割に到達していない。



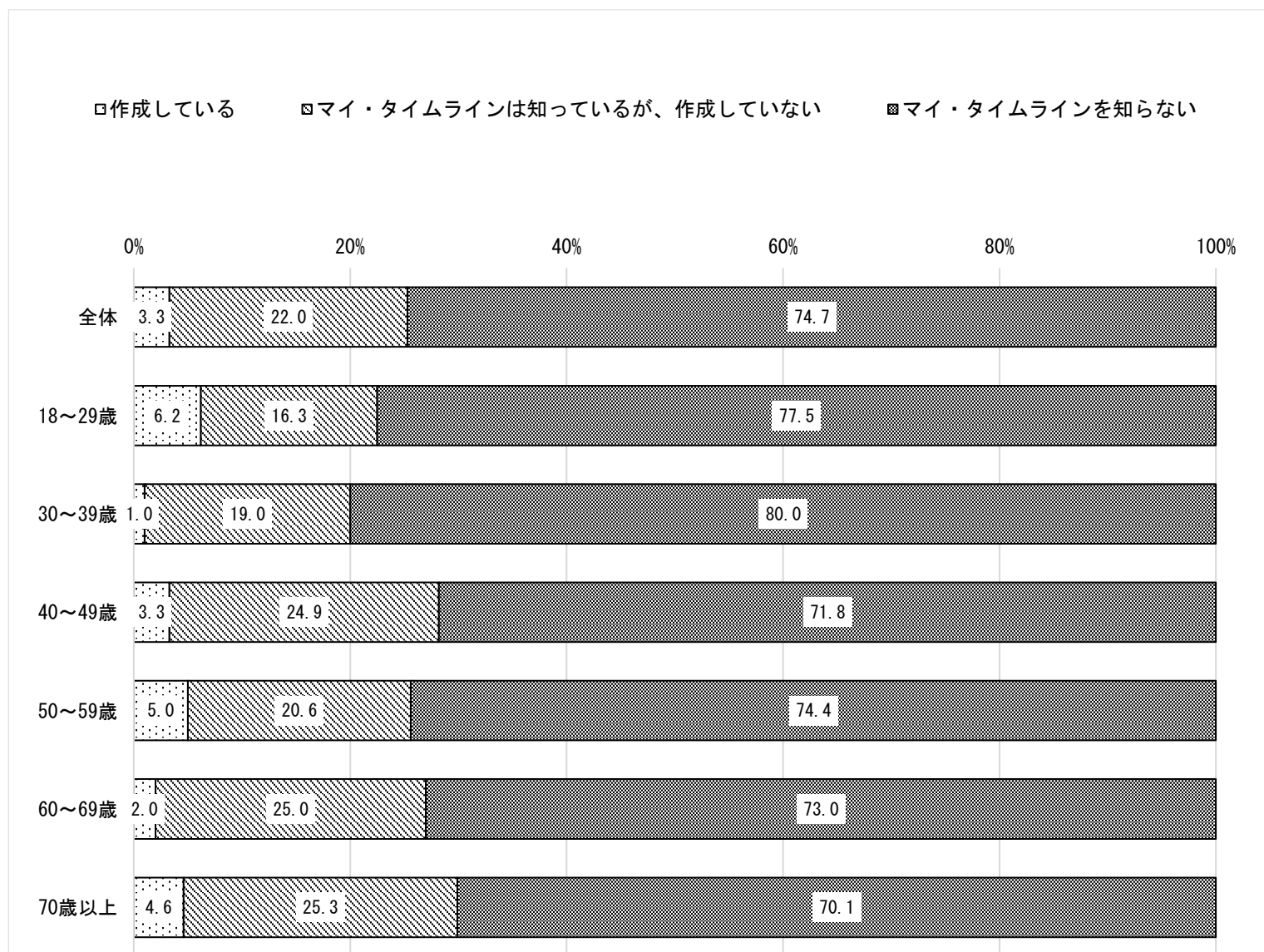
<マイ・タイムラインの作成状況>

「知っているが、作成していない」、「知らない」の合計が9割超

問16 災害に備えてマイ・タイムライン(時系列で整理した一人ひとりの防災行動計画)を作成していますか。
当てはまるものを選んでください。

	今回調査 n=1,000		(参考)前回 R5.9月調査 n=1,000	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
作成している	33	3.3	26	2.6
マイ・タイムラインは知っているが、作成していない	220	22.0	308	30.8
マイ・タイムラインを知らない	747	74.7	666	66.6

●「マイ・タイムラインは知っているが、作成していない」、「マイ・タイムラインを知らない」の合計が96.7%となっている。



《多文化共生社会について》

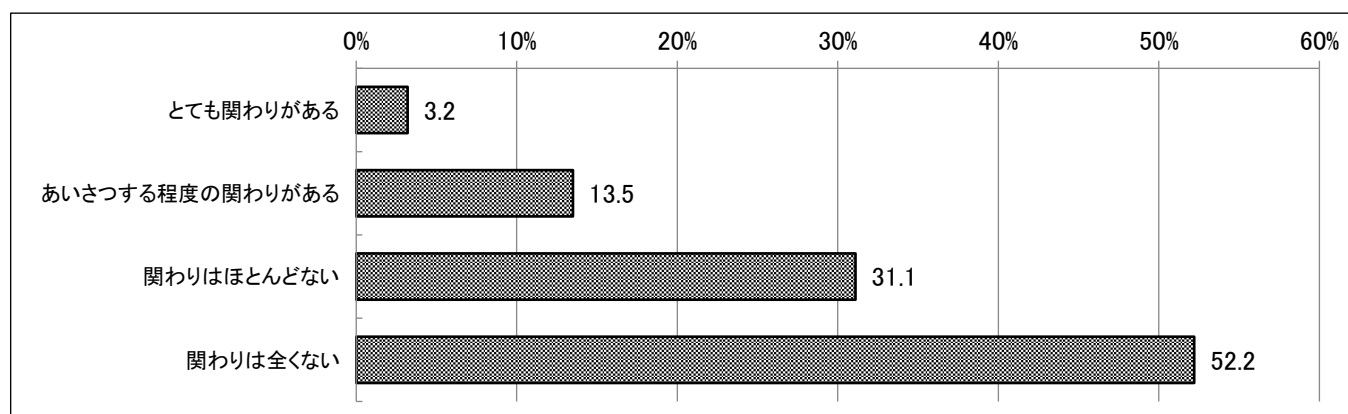
＜日常生活での外国人との関わり＞

「とても関わりがある」、「あいさつする程度の関わりがある」が合わせて2割弱

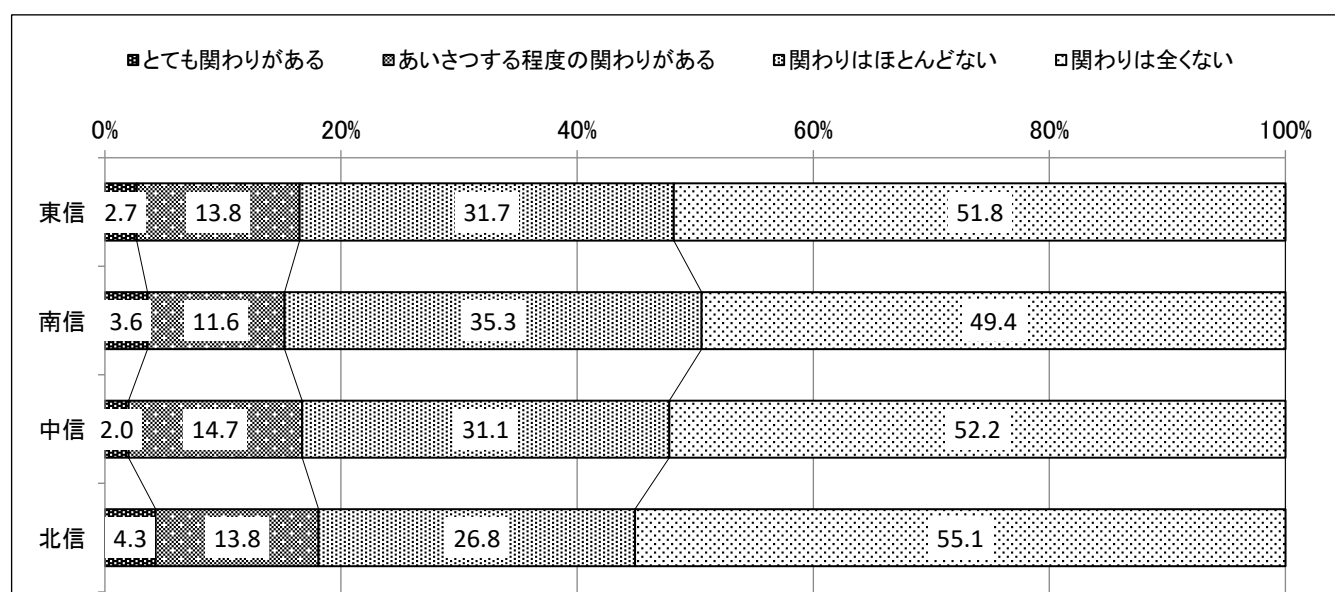
問17 あなたは、日常生活で県内に住んでいる外国人とどのような関わりがありますか。または、ありましたか。当てはまるものを選んでください。

	n=1000	回答数 (人)	割合 (%)
とても関わりがある		32	3.2
あいさつする程度の関わりがある		135	13.5
関わりはほとんどない		311	31.1
関わりは全くない		522	52.2

●「とても関わりがある」「あいさつする程度の関わりがある」とを合わせると2割弱が日常生活で外国人と何らかの関わりがある。



●「あいさつする程度の関わりがある」、「とてもある」を合わせた割合は、北信(約2割)で最も高くなっている。一方で「関わりはほとんどない」「関わりは全くない」、を合わせた割合は、南信(8割超)で最も高くなっている。



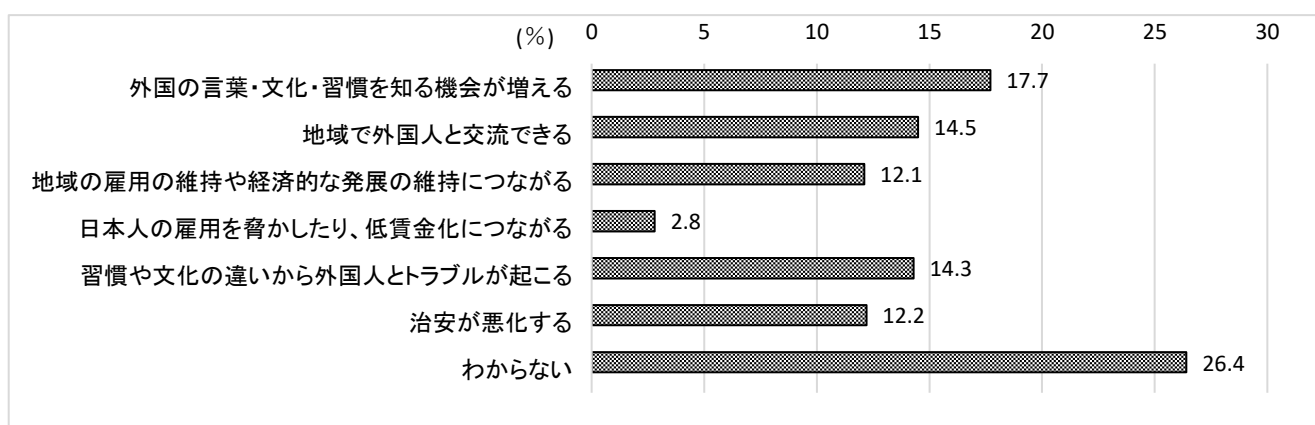
＜外国人とともに暮らす社会への意識＞

「外国の言葉・文化・習慣を知る機会が増える」、「地域で外国人と交流できる」、「地域の雇用の維持や経済的な発展の維持につながる」が合わせて4割超

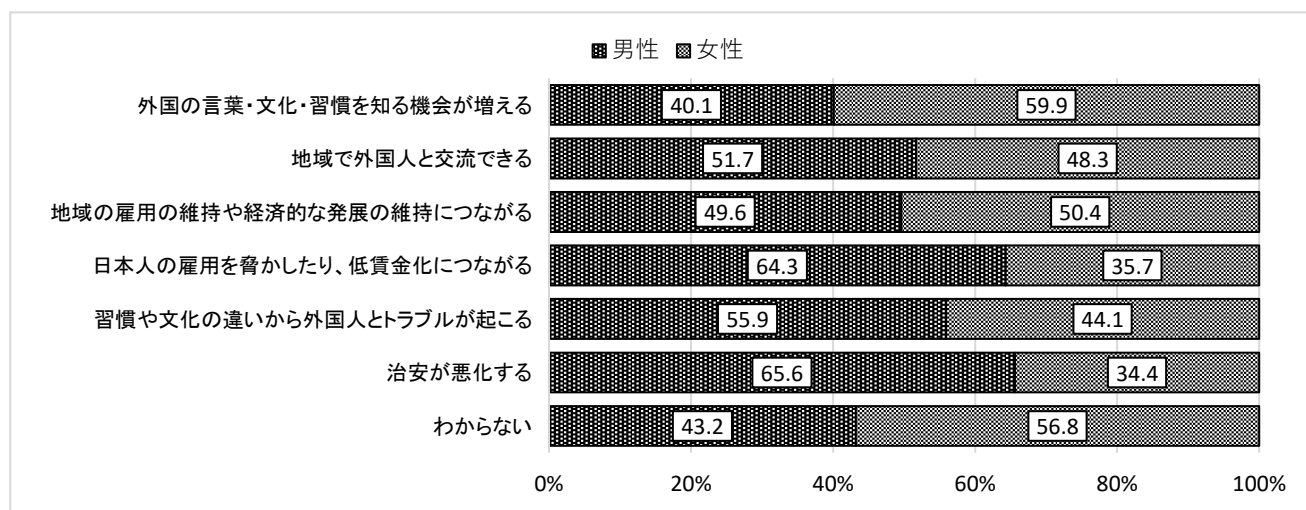
問18 あなたは外国人とともに暮らす社会についてどう思いますか。最も当てはまるものを選んでください。

	n=1000	回答数 (人)	割合 (%)
外国の言葉・文化・習慣を知る機会が増える		177	17.7
地域で外国人と交流できる		145	14.5
地域の雇用の維持や経済的な発展の維持につながる		121	12.1
日本人の雇用を脅かしたり、低賃金化につながる		28	2.8
習慣や文化の違いから外国人とトラブルが起こる		143	14.3
治安が悪化する		122	12.2
わからない		264	26.4

●「わからない」が3割弱と最も高く、次に「外国の言葉・文化・習慣を知る機会が増える」(約2割)となっている。



●男女間で回答割合に10%以上の差があったのは、「日本人の雇用を脅かしたり、低賃金化につながる」、「習慣や文化の違いから外国人とトラブルが起こる」、「治安が悪化する」(男性の方が多い)、「外国の言葉・文化・習慣を知る機会が増える」、「わからない」(女性の方が多い)であった。



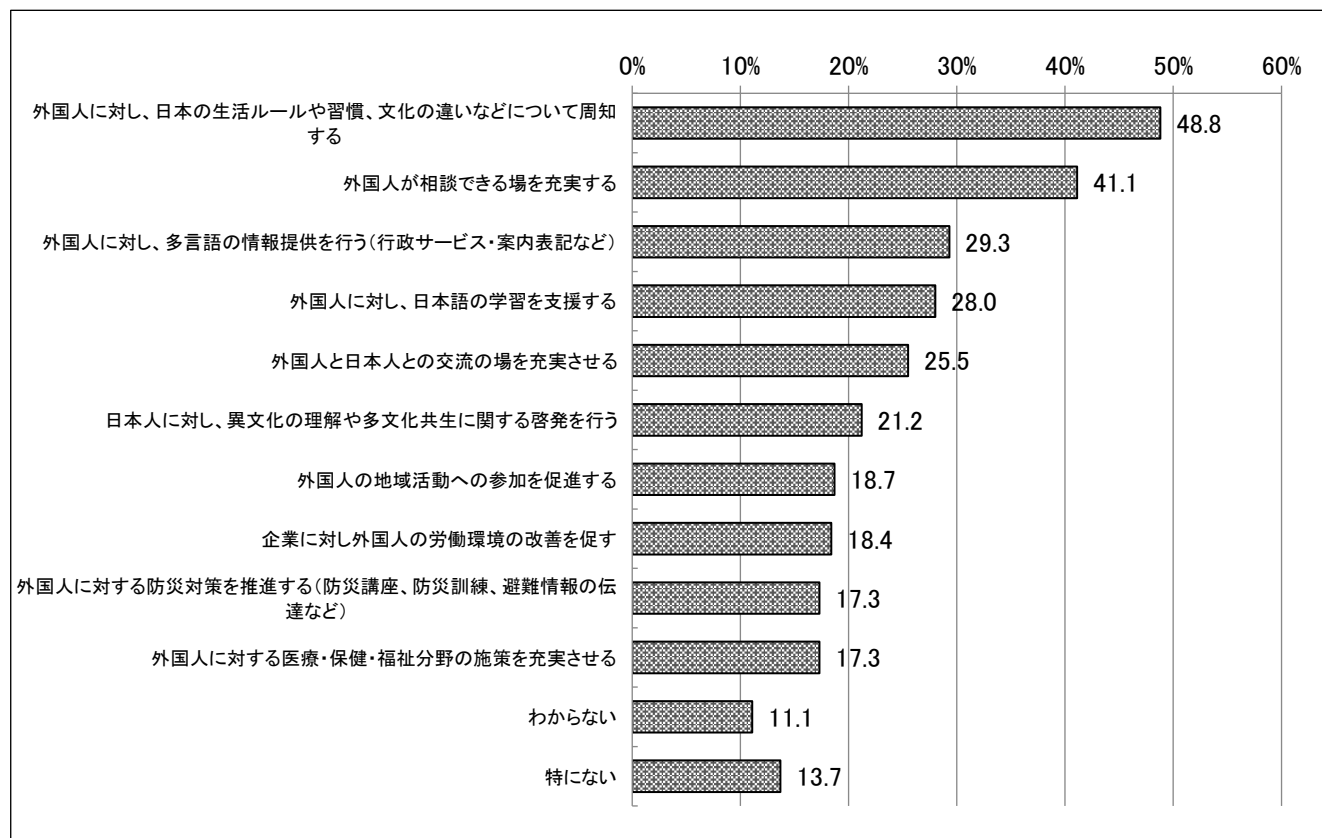
<県や市町村が力を入れるべき取組>

「外国人に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する」が約5割、「外国人が相談できる場を充実する」が約4割

問19 あなたは、外国人とともに暮らしやすい社会にしていくためには、県や市町村はどのような取組に力を入れるべきだと思いますか。当てはまるものを選んでください。(いくつでも)

	n=1000	回答数 (人)	割合 (%)
外国人に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する		488	48.8
外国人が相談できる場を充実する		411	41.1
外国人に対し、多言語の情報提供を行う(行政サービス・案内表記など)		293	29.3
外国人に対し、日本語の学習を支援する		280	28.0
外国人と日本人との交流の場を充実させる		255	25.5
日本人に対し、異文化の理解や多文化共生に関する啓発を行う		212	21.2
外国人の地域活動への参加を促進する		187	18.7
企業に対し外国人の労働環境の改善を促す		184	18.4
外国人に対する防災対策を推進する(防災講座、防災訓練、避難情報の伝達など)		173	17.3
外国人に対する医療・保健・福祉分野の施策を充実させる		173	17.3
わからない		111	11.1
特にない		137	13.7

●「外国人に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する」が約5割と最も高く、次に「外国人が相談できる場を充実する」(約4割)、「外国人に対し、多言語の情報提供を行う(行政サービス・案内表記など)」(約3割)となっている。



Ⅲ 調 査 票

【文化芸術の振興と文化芸術の力の様々な分野への活用について】

問1

以下の中で、あなたが令和5年度(令和5年4月1日～令和6年3月31日)に行った「文化芸術活動(鑑賞を含む)」(※)について、当てはまるものをすべて選んでください。(それぞれいくつでも)
 なお、実際の会場(いわゆる「リアル」)での鑑賞や参加等に限らず、デジタル機器を活用してオンライン上で活動や鑑賞を行った場合も含まれます。
 ※「文化芸術活動(鑑賞を含む)」とは、あなたが楽しさを感じ、感動を覚えたと感じる下記のような活動(又は鑑賞)をいいます。

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
	音楽(クラシック、ロック、ポップス、演歌、民謡など)	美術(絵画、彫刻、工芸、現代美術など)	写真	演劇(現代劇、ミュージカルなど)	舞踊(バレエ、ダンスなど)	メディア芸術(映画・漫画・アニメ・CG作品など)	伝統芸能(能・狂言、雅楽、歌舞伎、詩吟、日本舞踊など)	地域の民俗芸能(獅子舞、神楽など)	演芸(落語、漫才など)	生活文化(書道、華道、茶道など)	文芸(小説、短歌、俳句、川柳など)	国民娯楽(囲碁、将棋など)	その他	行わなかった
自ら創作・発表、または参加した文化芸術活動	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
鑑賞した文化芸術作品	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

問1で①～⑬を一つでも選択した方に伺います。
 問2 あなたは、文化芸術活動においてデジタル機器等を活用してオンライン上で活動や鑑賞を行いましたか。当てはまるものを選んでください。

- ① オンライン上で自ら創作・発表・参加し、鑑賞も行った
- ② オンライン上で自ら創作・発表・参加のみ行った
- ③ オンライン上で鑑賞のみ行った
- ④ オンライン上での活動や鑑賞は行っていない

問3 あなたは、あなたが住んでいる市町村の文化的環境、例えば、創作・発表・参加機会、鑑賞機会、文化財や伝統的まちなみの保存・整備などに満足していますか。当てはまるものを選んでください。

- ① 満足している
- ② どちらかといえば満足している
- ③ どちらかといえば満足していない
- ④ 満足していない
- ⑤ わからない

問4 あなたは、あなたが住んでいる市町村の文化的環境を満足できるものとするために、何が必要だと思いますか。当てはまるものを選んでください。(いくつでも)

- ① ホール・劇場、美術館・博物館などの文化施設の充実
- ② 公演、展覧会、芸術祭などの文化事業の充実
- ③ 地域の芸能や祭りなどの継承・保存
- ④ 歴史的な建物や遺跡などを活かしたまちづくりの推進
- ⑤ 芸術家や文化団体の活動の支援
- ⑥ 文化施設や文化事業において地域の芸術家を積極的に活用
- ⑦ 子どもが文化芸術に親しむ機会の充実
- ⑧ その他(具体的に)
- ⑨ 特に必要はない
- ⑩ わからない

【自殺対策について】

問5 自殺対策に関する以下の相談窓口等について知っていますか。当てはまるものを選んでください。(いくつでも)

- ① こころの健康相談統一ダイヤル
- ② こころの相談窓口
- ③ よりそいホットライン
- ④ 長野いのちの電話
- ⑤ 各種SNS相談窓口
- ⑥ ゲートキーパー
- ⑦ くらしと健康の相談会
- ⑧ 自殺予防週間／自殺対策強化月間
- ⑨ 子どもの自殺危機対応チーム
- ⑩ あすなろの会(自死遺族交流会)
- ⑪ いずれも知らなかった

問6 あなたは自殺の実態やその予防に関する正しい知識に触れる機会((例)ゲートキーパー研修や講演会に参加した、啓発に関する情報を見聞きした等)がありましたか。当てはまるものを選んでください。

- ① ある
- ② ない

問7 あなたは「死にたいほどつらい」気持ちになったことがありますか。当てはまるものを選んでください。

- ① ある(1年以内)
- ② ある(1年より前)
- ③ ない

問8 問7で「①ある(1年以内)」または「②ある(1年より前)」を選ばれた方に伺います。
どこかに相談しましたか。当てはまるものを選んでください。(いくつでも)
また、⑯の場合は、具体的な相談先をご記載ください。

- ① 親
- ② 配偶者・パートナー
- ③ きょうだい
- ④ 子
- ⑤ ①～④を除く親族
- ⑥ 恋人・友人
- ⑦ 近所の人
- ⑧ 地域の民生委員児童委員
- ⑨ 上司・同僚・部下
- ⑩ 弁護士・司法書士・法テラス
- ⑪ 医師・看護師等
- ⑫ ヘルパー・ケアマネージャーなど
- ⑬ 民間の相談窓口・民間のカウンセラー
- ⑭ 行政の相談窓口
- ⑮ SNS相談窓口
- ⑯ その他()
- ⑰ 相談はしなかった

問9 「表情が暗い」「疲れていそう」など、様子が気になる人に対して、どのように接していますか。最も当てはまるものを選んでください。

- ① すぐに声をかける
- ② 見守りつつ、自分のタイミングで声をかけてみる
- ③ 実施していることはない
- ④ これまで様子が気になる人はいなかった
- ⑤ その他

問10 あなたの周りにいる子どもたちは生き生きと過ごすことができていると感じますか。当てはまるものを選んでください。

- ① 感じる
- ② まあ感じる
- ③ あまり感じない
- ④ 感じない
- ⑤ 分からない
- ⑥ 周りに子どもがいない

③もしくは④を選んだ方は、その理由をご記載ください。

--

問11 あなた自身、家族又は周囲の人に下記の内容が原因で悩んでいる方はいますか。当てはまるものを選んでください。(いくつでも)

- ① 生活困窮
- ② 勤務問題(ハラスメント、職場環境、労働条件等)
- ③ いない／わからない

問12 問11で「①生活困窮」を選ばれた方に伺います。
その悩んでいる方はどこに相談しましたか。当てはまるものを選んでください。(いくつでも)
また、⑯の場合は、具体的な相談先をご記載ください。

- ① 親
- ② 配偶者・パートナー
- ③ きょうだい
- ④ 子
- ⑤ ①～④を除く親族
- ⑥ 恋人・友人
- ⑦ 近所の人
- ⑧ 地域の民生委員児童委員
- ⑨ 弁護士・司法書士・法テラス
- ⑩ 医師・看護師等
- ⑪ ヘルパー・ケアマネージャーなど
- ⑫ 民間の相談窓口・民間のカウンセラー
- ⑬ 行政の相談窓口(福祉事務所、生活保護担当部署など)
- ⑭ 長野県生活就労支援センターまいさぼ(社会福祉協議会)
- ⑮ くらしと健康の相談会(保健福祉事務所で開催)
- ⑯ その他()
- ⑰ 相談はしなかった
- ⑱ 分からない

問13 問11で「②勤務問題」を選ばれた方に伺います。
その悩んでいる方はどこに相談をしましたか。当てはまるものを選んでください。(いくつでも)
また、⑬の場合は、具体的な相談先をご記載ください。

- ① 親
- ② 配偶者・パートナー
- ③ きょうだい
- ④ 子
- ⑤ ①～④を除く親族
- ⑥ 恋人・友人
- ⑦ 近所の人
- ⑧ 上司・同僚・部下
- ⑨ 勤務先の相談窓口
- ⑩ 医師・看護師等
- ⑪ 民間の相談窓口・民間のカウンセラー
- ⑫ 行政の相談窓口(労政事務所、長野労働局雇用環境・均等室、労働基準監督署など)
- ⑬ その他()
- ⑭ 相談はしなかった
- ⑮ わからない

問14 年齢が30～50代で現在就労(正規・非正規限らず)している方へ伺います。(※)
あなたは安心して働けていると感じますか。当てはまるものを選んでください。
※30～50代ではない方、または30～50代であるが就労していない方は、選択肢⑥「30～50代ではない。
または30～50代であるが就労していない」を選んでください。

- ① 感じる
- ② まあ感じる
- ③ あまり感じない
- ④ 感じない
- ⑤ わからない
- ⑥ 30～50代ではない。または30～50代であるが就労していない

③もしくは④を選んだ方は、その理由をご記載ください。

--

【防災に関する意識について】

問15 ハザードマップや信州防災アプリなどにより、自宅周辺の災害リスクを認識していますか。当てはまるものを選んでください。

- ① ハザードマップ等を見たことがあり、自宅周辺の災害リスクを知っている
- ② ハザードマップ等を見たことはあるが、自宅周辺の災害リスクは知らない
- ③ ハザードマップ等を見たことがない

問16 災害に備えてマイ・タイムライン(時系列で整理した一人ひとりの防災行動計画)を作成していますか。当てはまるものを選んでください。

- ① 作成している
- ② マイ・タイムラインは知っているが、作成していない
- ③ マイ・タイムラインを知らない

【多文化共生社会について】

問17 あなたは、日常生活で県内に住んでいる外国人とどのような関わりがありますか。または、ありましたか。当てはまるものを選んでください。

- ① とても関わりがある
- ② あいさつする程度の関わりがある
- ③ 関わりはほとんどない
- ④ 関わりは全くない

問18 あなたは外国人とともに暮らす社会についてどう思いますか。最も当てはまるものを選んでください。

- ① 外国の言葉・文化・習慣を知る機会が増える
- ② 地域で外国人と交流できる
- ③ 地域の雇用の維持や経済的な発展の維持につながる
- ④ 日本人の雇用を脅かしたり、低賃金化につながる
- ⑤ 習慣や文化の違いから外国人とトラブルが起こる
- ⑥ 治安が悪化する
- ⑦ わからない

問19 あなたは、外国人とともに暮らしやすい社会にしていくためには、県や市町村はどのような取組に力を入れるべきだと思いますか。当てはまるものを選んでください。(いくつでも)

- ① 外国人に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する
- ② 外国人が相談できる場を充実する
- ③ 外国人に対し、多言語の情報提供を行う(行政サービス・案内表記など)
- ④ 外国人に対し、日本語の学習を支援する
- ⑤ 外国人に対する防災対策を推進する(防災講座、防災訓練、避難情報の伝達など)
- ⑥ 外国人に対する医療・保健・福祉分野の施策を充実させる
- ⑦ 外国人と日本人との交流の場を充実させる
- ⑧ 外国人の地域活動への参加を促進する
- ⑨ 企業に対し外国人の労働環境の改善を促す
- ⑩ 日本人に対し、異文化の理解や多文化共生に関する啓発を行う
- ⑪ わからない
- ⑫ 特にない